

『3 R活動先進事例集』

～平成 21 年度 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

受賞者の取り組み～

平成 2 2 年 3 月

環 境 省

株式会社 日経スタッフ

はじめに

「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」は、平成18年度に環境省によって設けられ、廃棄物の発生抑制（リデュース）、再利用（リユース）、再生利用（リサイクル）の3R（スリー・アール）の適切な推進に顕著な功績があった個人、団体、企業を表彰し、その功績をたたえて、循環型社会の形成の推進に資することを目的としています。

この事例集は、平成21年度「循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰」を受けられた企業21社、団体12団体および個人5名の先進的活動の概要を事例集として取りまとめたものです。

本事例集が、3R推進に取り組む全国の企業、NGO／NPO等団体・市民、自治体等行政の関係者の皆様の今後のご活動のご参考となれば幸いです。

平成22年3月

環 境 省

株式会社 日経スタッフ

目次

はじめに

3 R活動先進事例集

3 R活動優良企業

環境開発工業株式会社（北海道）	2
岩手東芝エレクトロニクス株式会社（岩手県）	4
シャープ株式会社 幕張事業所（千葉県）	6
東京たまエコセメント株式会社（東京都）	8
森永乳業株式会社 東京多摩工場（東京都）	10
東レ株式会社 機能製品・縫製品事業部門機能製品事業部（東京都）	12
日新工業株式会社（東京都）	14
株式会社 長谷工コーポレーション（東京都）	16
株式会社 大林組（東京都）	18
株式会社 信州ウェイト（長野県）	20
丸硝株式会社（岐阜県）	22
静岡油化工業株式会社（静岡県）	24
光アスコン株式会社（京都府）	26
キンキサイン株式会社（兵庫県）	28
泉興業株式会社（兵庫県）	30
倉吉環境事業有限会社（鳥取県）	32
大塚製薬株式会社 徳島ワジキ工場（徳島県）	34
リコー関西株式会社 四国支社（香川県）	36
株式会社 ビッグベアーズフーズサービス（福岡県）	38
シタマ石灰有限会社（福岡県）	40
有限会社 鳥栖環境開発総合センター（佐賀県）	42

3 R活動推進功労団体

下川町森林組合（北海道）	46
NPO法人 秋田菜の花ネットワーク（秋田県）	48
南砺市連合婦人会（富山県）	50
滑川市立早月中学校PTA（富山県）	52
かほく市子ども会連絡協議会（石川県）	54

美濃加茂市生活学校（岐阜県）	56
静岡県牛乳協会（静岡県）	58
柏原エイフボランティアクラブ（大阪府）	60
エコフィード循環事業協同組合（兵庫県）	62
愛媛県立新居浜工業高等学校（愛媛県）	64
三潞郡大木町婦人会（福岡県）	66
中島校区まちづくり協議会（福岡県）	68

3 R活動推進功労個人

占部 敏治（福島県）	72
玉川 榮（神奈川県）	74
岡本 靖磨呂（岡山県）	76
三上 秀行（広島県）	78
旭 芳郎（長崎県）	80

参考資料

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の制度について

資料1 平成18～21年度循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰者功績一覧

資料2 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

3 R事業種別目次

掲載ページ

バイオマス（食品）

静岡油化工業株式会社（静岡県）	24
キンキサイン株式会社（兵庫県）	28
エコフィールド循環事業協同組合（兵庫県）	62

バイオマス（廃油）

倉吉環境事業有限会社（鳥取県）	32
-----------------------	----

バイオマス（廃油系）

NPO法人 秋田菜の花ネットワーク（秋田県）	48
------------------------------	----

バイオマス（木質系）

下川町森林組合（北海道）	46
--------------------	----

バイオマス（食品、木質系、廃油）

有限会社 鳥栖環境開発総合センター（佐賀県）	42
------------------------------	----

リサイクル（廃プラスチック）

株式会社 信州ウェイスト（長野県）	20
-------------------------	----

リサイクル（廃ガラス）

丸硝株式会社（岐阜県）	22
-------------------	----

リサイクル（セメント利用）

東京たまエコセメント株式会社（東京都）	8
---------------------------	---

リサイクル（繊維）

東レ株式会社 機能製品縫製品事業部門機能製品事業部（東京都）	12
日新工業株式会社（東京都）	14

リサイクル（古紙）

リコー関西株式会社 四国支社（香川県）	36
静岡県牛乳協会（静岡県）	58

リサイクル（建設廃棄物）

株式会社 大林組（東京都）	18
光アスコン株式会社（京都府）	26
三上 秀行（広島県）	78

リサイクル（産業廃棄物全般）

岩手東芝エレクトロニクス株式会社（岩手県）	4
-----------------------------	---

総合的取組（企業）

シャープ株式会社 幕張事業所（千葉県）	6
株式会社 長谷工コーポレーション（東京都）	16
泉興業株式会社（兵庫県）	30
株式会社 ビッグベアーズフーズサービス（福岡県）	38

総合的取組（団体）

南砺市連合婦人会（富山県）	50
滑川市立早月中学校PTA（富山県）	52
かほく市子ども会連絡協議会（石川県）	54
美濃加茂市生活学校（岐阜県）	56
柏原エイフボランタリークラブ（大阪府）	60
三潞郡大木町婦人会（福岡県）	66
中島校区まちづくり協議会（福岡県）	68

総合的取組（個人）

占部 敏治（福島県）	72
玉川 榮（神奈川県）	74
旭 芳郎（長崎県）	80

ゼロエミッション

森永乳業株式会社 東京多摩工場（東京都）	10
大塚製薬株式会社 徳島ワジキ工場（徳島県）	34

その他

環境開発工業株式会社（北海道）	2
シタマ石灰有限会社（福岡県）	40
愛媛県立新居浜工業高等学校（愛媛県）	64
岡本 靖磨呂（岡山県）	76

3 R活動先進事例集

3 R活動優良企業

環境開発工業株式会社（北海道）

代表者：代表取締役社長 山田 太郎

設立：昭和51(1976)年5月

活動概要

1.事業の概要

当社は昭和 51 (1976) 年に廃油及び産業廃棄物の会社として発足し、「埋めない、焼かない」を目標にリサイクル率向上と、環境と福祉の融合を目指して活動してきました。

平成 13 (2001) 年に ISO14001 認証を取得し、平成 15 (2003) 年にエレメントカッター機を開発して処理を開始。平成 20 (2008) 年には「資源循環技術・システム表彰(会長賞)」と「北海道ゼロ・エミ優秀賞」を受賞しました。

2.取組の経緯

産業廃棄物の中でも、廃エンジンオイルは含まれるスラッジや水分を除去して再生重油に、また再生重油に廃食油を混合させてバイオ再生重油にして販売しております。

しかし、エンジンオイルと同様に発生する廃オイルフィルターの処理方法は、従来は焼却するしかありませんでした。

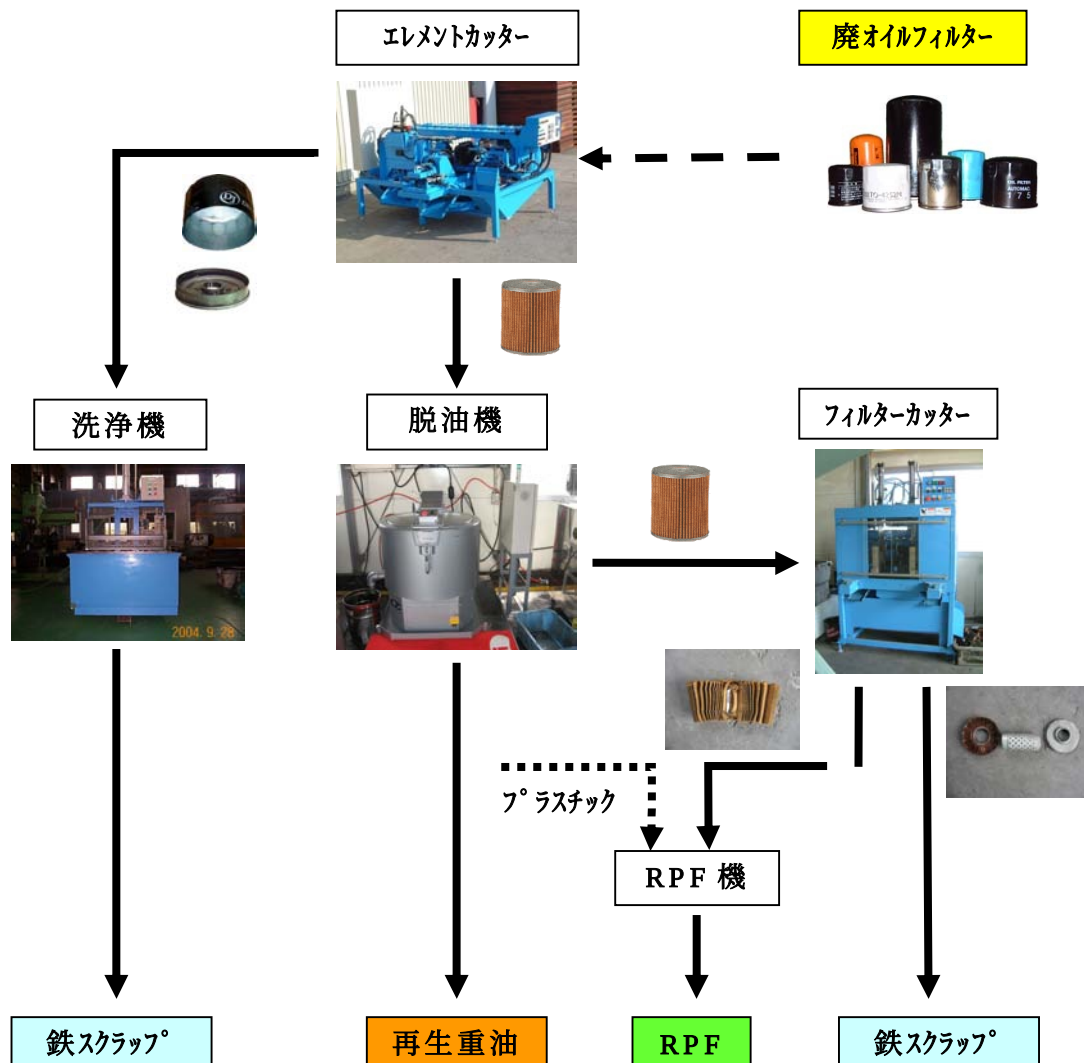


また、焼却するにしても、2 重構造のために炭化はするが焼却しにくい物でした(高温で長時間燃焼しなければならない)。



このため、焼却しない新しい処理方法としてエレメントカッター機を開発し、回収してきた廃オイルフィルターの約 80% (20%の中には燃料フィルターも含まれる) を再資源化し、廃棄物と CO₂ の排出量を大幅に抑制する事が出来ました。この装置は、軽自動車から大型トラックまでサイズを問わずに高速処理 (20 秒/個) して、廃棄物を有価物に 100%リサイクルし、CO₂ 発生をゼロに抑制します。

3.処理フロー



所在地 〒061-1111 北海道北広島市北の里 41 番地 27

連絡先 TEL : 011-373-2728 e-mail : takada@kklp.co.jp

URL <http://www.kklp.co.jp/>

代表者：取締役社長 高須 信賢

設立：昭和48（1973）年1月

活動概要

岩手東芝エレクトロニクスは、昭和48（1973）年に半導体組立専業会社として、株式会社東芝の100%出資により設立され、現在では、半導体デバイスの開発、設計、試作、製造までの一貫生産体制を構築し、マイクロコンピュータ、ASICなどのロジック製品のほかに、CMOSイメージセンサ、CCDエリアセンサの画像デバイスも手がけております。

平成5（1993）年より廃棄物リサイクルの取り組みを開始し、現在では排水処理汚泥のセメント原料化、廃プラスチック・紙屑の固形燃料化、濃厚フッ素系廃液の回収・再利用による排水処理汚泥の発生抑制等の施策を積極的に展開し、平成20（2008）年度には、廃棄物のリサイクル率99.8%を達成しました。

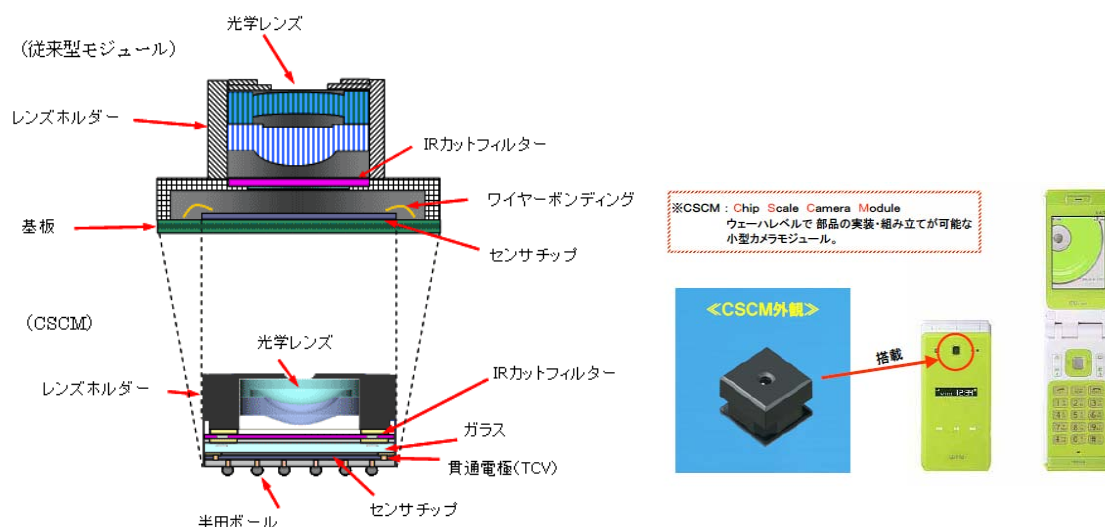
今後も、企業活動の各プロセスにおいて循環型の行動をさらに実践し、環境配慮型の半導体製品の提供を通じて社会に貢献することを目指し、産業廃棄物のリサイクル並びに最終処分量の抑制を行い、循環型社会形成に貢献したいと存じます。

活動の様子

■ 廃棄物の発生抑制（リデュース）

カメラモジュール製品の小型化により、発生する廃棄物の抑制に寄与しました。

製品小型化により、原材料の大幅な削減を実現し、
(体積比で従来の約64%) 廃棄物の発生を抑制

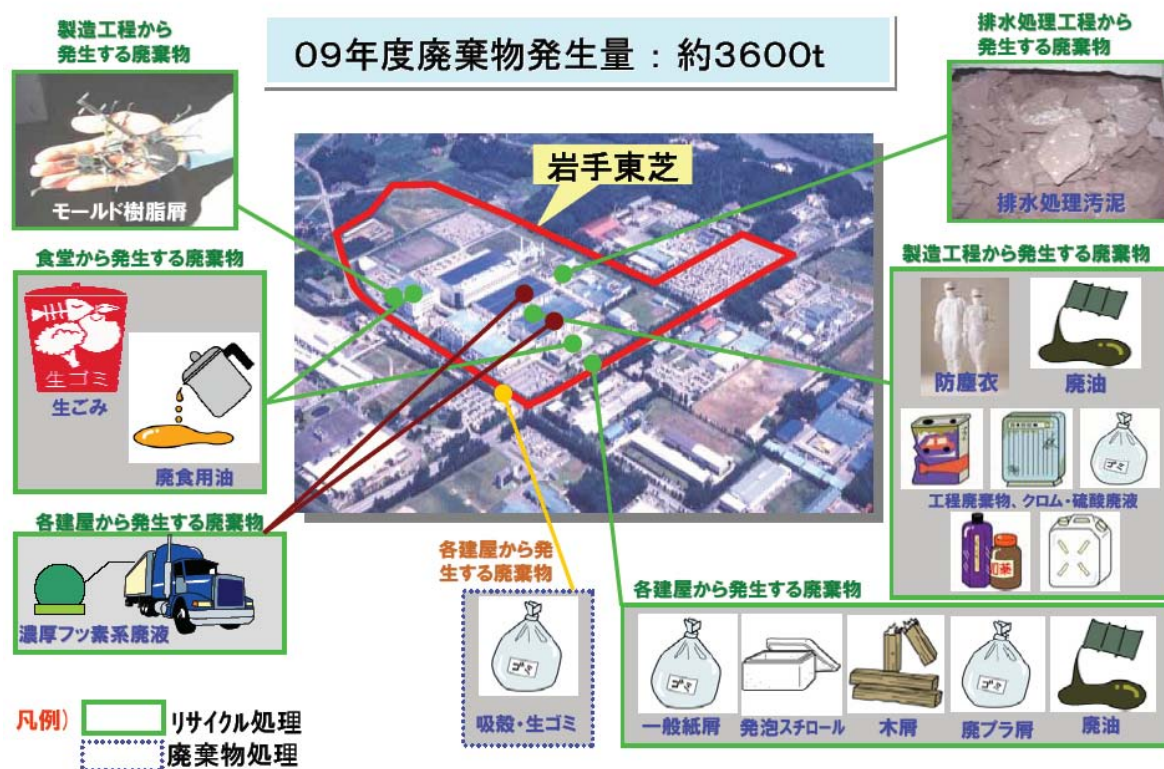


■ 廃棄物の再生利用（リサイクル）

社内から発生する廃棄物は、「吸殻、お茶殻等の生ゴミ」を除き、全てリサイクルすることを達成しました。

廃棄物のリサイクル率 99.8%を達成

当社から発生する廃棄物の種類、発生量



廃棄物名	用途
排水処理汚泥	セメントの原材料化
モールド樹脂屑	
紙屑	固形燃料化
プラスチック	
木屑	
濃厚フッ素系廃液	ステンレス洗浄剤
作業用防塵着	繊維原材料化
廃油	セメント工場の助燃材
工程廃液	製錬リサイクル化
発泡スチロール	原材料化
生ゴミ	堆肥化
食堂油	バイオディーゼル燃料化

所在地 〒024-8510 岩手県北上市北工業団地 6 番 6 号

連絡先 TEL : 0197-71-3003 e-mail : makoto2.kumagai@glb.toshiba.co.jp

URL http://www.toshiba-iwashiba.co.jp/index_j.htm

シャープ株式会社 幕張事業所（千葉県）

代表者：代表取締役 兼 副社長執行役員 東京支社長 安達 俊雄

設立(事業着手)：平成4(1992)年6月1日

活動概要

シャープ幕張事業所は、首都圏地区の研究開発拠点としてスタートし、現在では研究開発以外にもお客様相談窓口や営業・サービス部門など、約1,400名が勤務しています。

当事業所では、製品の製造は行っていないので大量の廃棄物が排出されることはありませんが、「※エコ・ポジティブ カンパニー」実現のため、オフィス系事業所として紙の使用量把握とリサイクルの徹底、厨芥の減容化、OA機器等産業廃棄物のリサイクルの徹底等を進めています。

ここでは、当事業所の用紙に対する削減、再資源化などの取組をご紹介します。



※エコ・ポジティブ カンパニー

事業活動で発生する環境負荷(ネガティブ・インパクト)よりも、創エネ・省エネ商品の創出を通じた温室効果ガスの削減という環境貢献(ポジティブ・インパクト)を創業100周年の2012年までに温室効果ガスの排出量に対する削減貢献量を2倍以上とする当社の環境ビジョン。

ISO14001 環境目標の「用紙の使用量削減」推進

当事業所では、平成11(1999)年 ISO14001 環境マネジメントシステム認証を取得して以来、一貫して環境目標に「用紙の使用量削減」を掲げています。

用紙の使用量は、各部門毎に毎月データを入力し、3カ月累計で目標をオーバーした時は環境事務局へ是正報告書を提出することになっています。

当初は、「両面コピー」、「縮小コピー」などの施策を講じていましたが、10年以上も継続していますと、根本的な対策が求められてきます。現在、当事業所では会議資料の電子化を行い、プロジェクターで投影することにより用紙削減の決め手としています。

さらに来年度からは、メイン画面は大型液晶ディスプレイで表示し、細かい図表・データなどは、会議室に1人1台設置したコンピュータで確認できる新たな会議システムを導入し、ペーパーレス化をより一層進めていきます。

紙系廃棄物分別の仕組み

各階の廊下には壁面ダストボックスが設置されています。ダストボックスは8つに区分されており新聞紙・雑誌・コピー用紙・段ボール・廃プラスチック・「燃えるゴミ」などに分類されています。

また、メモ紙などの小片やシュレッダーくずなども「燃えるゴミ」に入れずに再資源化をしています。「燃えるゴミ」に入れるものは、感熱紙・感圧紙などの再生できない用紙などです。「燃えるゴミ」をさらに清掃業者さんが再分別した分別後、千葉市清掃工場で焼却処分し、他のものはリサイクル処理を行っています。



焼却処分ゴミのフロア別1人当たり排出量は、毎月社内イントラホームページに掲示しています。

また、リサイクル可能な紙などが多く混入していた場合は、清掃業者さんからの報告に基づき、その都度総務部から環境推進リーダーに注意し改善をしています。

古紙の有価売却・再資源化

雑誌・新聞紙・段ボールなどは品目別に分類し、有価売却を行っています。廃棄物収集業者さんがそのまま古紙問屋へ納品できるよう分別を徹底し、買い取りをしていただいています。廃棄コストの削減につながるとともに、廃棄物としてではなく有価物としてカウントされますので、廃棄物の排出量が大きく削減できます。

機密書類は、セキュリティの確保のため専門処理業者さんをお願いし、再資源化を行っています。

その他これまでの取組

1999年10月～ 生ごみ処理機による社員食堂厨芥の減容化
(投入量の約78%)

2001年10月～ OA機器など産業廃棄物処理を手分解リサイクルを行っている業者さんへの切り替えによるリサイクル率向上

2006年4月～ 食堂業務委託業者さんとの定期協議による社員食堂の厨芥排出量削減の取り組み

所在地 〒261-0023 千葉県千葉市美浜区中瀬1丁目9番2号

連絡先 TEL : 043-299-8213 e-mail : matsumoto.yoshimasa@sharp.co.jp

URL <http://www.sharp.co.jp/>

東京たまエコセメント株式会社（東京都）

代表者：代表取締役社長 市川光成

設立：平成15（2003）年5月30日 運転開始：平成18（2006）年7月1日

活動概要

当社は東京たまエコセメント化施設の運転維持管理業務を、東京たま広域資源循環組合から委託され、東京都多摩地域25市1町から排出されるごみ焼却灰の全量を*エコセメントの原料として再生利用（リサイクル）することによって、埋立最終処分場の延命化を実現し、同時に循環型社会形成に貢献しています。

* エコセメントとは、エコロジーとセメントの合成語で、都市ごみ焼却灰等の廃棄物を主原料として製造される新タイプのセメントです。

1. 東京たまエコセメント化施設の概要

場 所：東京都西多摩郡日の出町大字大久野7642番地
（二ツ塚廃棄物広域処分場内）

面 積：4.6ha（二ツ塚廃棄物広域処分場全体面積59.1ha）

施設規模：焼却灰等の平均処理量 約300トン/日

エコセメントの平均生産量 約430トン/日

稼 動：平成18（2006）年7月から



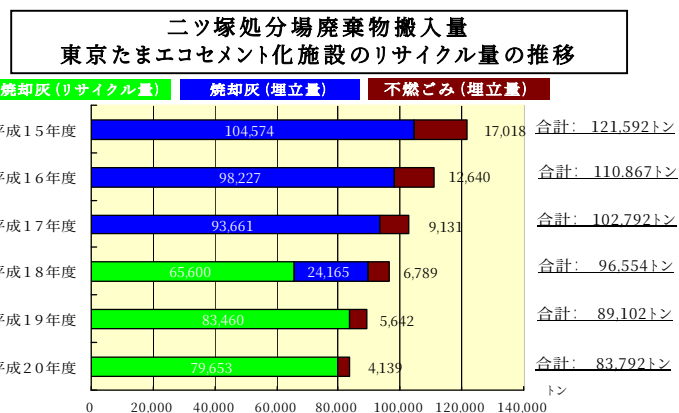
東京たまエコセメント化施設

2. 活動の成果

(1) 埋立量の低減状況

ごみ焼却灰の再生利用により、二ツ塚廃棄物広域処分場（最終埋立処分場）の埋め立ては不燃物のみとなりました。

これにより埋立量が削減でき、処分場延命に大きく貢献しています。



(2)エコセメントの活用状況

道路整備工事等の社会基盤整備にエコセメントが活用され、循環型社会形成に貢献しています。

1) エコセメントを100%使用したコンクリート製品の例

境界用ブロック



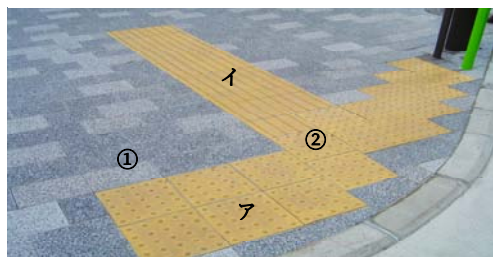
L型街渠



インターロッキングブロック



2) エコセメントの街中での使用例



① インターロッキングブロック（敷石）

② 視覚障害者誘導用ブロック

ア 警告表示

イ 誘導表示

【特筆事項】



平成 20(2008)年 7 月、北海道洞爺湖サミットにて国内の省エネ技術を集結した近未来型住宅「ゼロエミッションハウス」が展示され、玄関の階段、スロープ、塀などにエコセメントが使用されました。

所在地 〒190-0181 東京都西多摩郡日の出町大字大久野 7642 番地

連絡先 TEL： 042-588-7560

URL <http://www.tama-junkankumiai.com> （東京たま広域資源循環組合）

森永乳業株式会社 東京多摩工場（東京都）

代表者：執行役員工場長 木原吉一

設立(事業着手)：昭和41(1966)年2月

活動概要

森永乳業株式会社東京多摩工場は、牛乳やジュースなどの飲料とヨーグルト製品を製造する市乳工場で、隣接する粉乳製品を製造する大和工場・村山工場とともに(以下、多摩サイトと呼ぶ)、弊社の主力工場として、毎日お客様に「安全・安心で高品質な商品」をお届けしています。

森永乳業グループは、1993年に環境保全業務要綱を制定し、様々な環境保全活動に積極的に取り組んでいます。多摩サイトでは、1999年にISO14001の認証を取得し、「廃棄物の削減と省エネルギーなど環境負荷の低減」と、「地域社会との共生」を目的とした環境活動を継続的に行っています。



多摩サイトでは、次のような『3R活動』を推進しています。

(1) 産業廃棄物の排出量削減

排水処理場から排出される脱水汚泥、ラインの切り替えなどで発生する廃液、コーヒーや紅茶の排出滓などは、以前は全量を外部委託処理していましたが、1999年に廃熱回収ボイラー付属の流動床焼却炉を設置して、自家処理量を増やし外部排出量を大幅に削減しました。廃熱回収ボイラーで発生した蒸気は製造工程で使用され、サイト全体の蒸気使用量の9%になっています。

(2) 再資源化・ゼロエミッションの推進

廃棄物を循環資源として位置づけ、徹底した分別・収集を行っています。金属類・段ボール・工程損紙・廃プラスチック類は細かく分別し、有価で売却(マテリアルリサイクル)。有価にならない廃棄物については、**有用に再資源化**を行っている外部処分先へ委託するなど、ゼロエミッションに取り組んでいます。再資源化率は2002年度以降は99%以上、2003～06・08年度は100%を達成しました。

(再資源化の具体例)

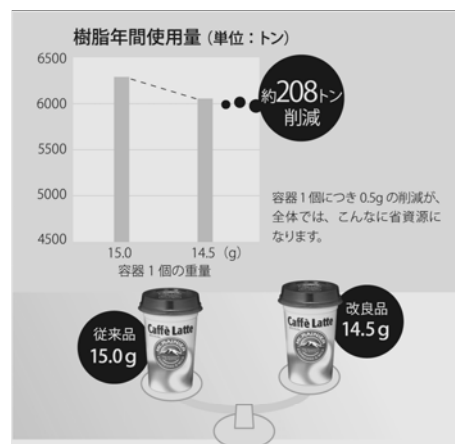
- ・牛乳ビンの樹脂キャップ→梱包用気泡シート“プチプチ”やコンビニの買い物袋
- ・資材納入時の外包装ポリ袋やシュリンクフィルム類→デッキ材などの再生木材
- ・廃乳・廃液→養豚飼料(リキッドフィード)、またはメタン発酵により燃料化
- ・コーヒー・紅茶滓→活性炭の原料、発電所での石炭代替燃料(ハ'イオエネルギー)
- ・排水処理場の脱水汚泥→菌体肥料、廃潤滑油→コンクリートの離型・脱型剤
- ・再生できない廃プラ・紙類→RPF(固形燃料)、塩ビ管など→塩酸
- ・焼却炉の燃え殻、焼却灰→セメント原料、溶融して路盤材、etc.

このように、多摩サイトの廃棄物は、思いもかけない「立派な資源」として生まれ変わっています。

(3) リユース(再使用)・リデュース(排出抑制)の推進

多摩サイトでは、これまで、宅配牛乳ビンの回収と洗浄による再使用、カップ容器の外包装のプラスチック段ボール化・通い箱化、原料果汁用ドラム缶の納入業者引き取り・再使用などを行ってきました。2006年には外表面のコーティングによって耐久性が向上し従来の244gから130gに軽量化された宅配用牛乳ビンに切り替えて、再使用の回数を増やすとともに輸送効率の向上を図りました。結果として、ビンの製造・廃棄と製品輸送の過程でも省資源・CO₂排出量削減に貢献しています。

森永乳業は、独自の「エコパッケージガイド」を制定し、商品の企画・開発段階から3R、安全性、使いやすさに配慮した容器包装の開発・改良に努めています。牛乳ビンの軽量化の他、カフェラッテ容器や紙製飲料容器の軽量化、出荷用の段ボールトレイの省材料化に取り組み、パルメザンチーズ容器ではプラスチック素材に単一化するなど、お客様の分別リサイクルに適した容器に改良しました。



(4) 普及・啓発活動

東京多摩工場は、見学工場として年間およそ1万5000名ものお客様を受け入れています。その際、使用済みの牛乳パックを用いた紙漉き講習会を実施するなど、環境保全活動のPRと啓発活動を推進しています。

また、社内での従業員に対する環境教育はもとより、地域の学校や市民団体からの要請で勉強会へ出向くなど、広く「多摩サイトの3R活動」を紹介しています。

所在地 〒207-0021 東京都東大和市立野 4-515

連絡先 TEL : 042-561-2111 e-mail : y_sugawr@morinagamilk.co.jp

URL <http://www.morinagamilk.co.jp/index.html>

代表者：代表取締役社長 榊原 定征

設立：大正15(1926)年1月

活動概要

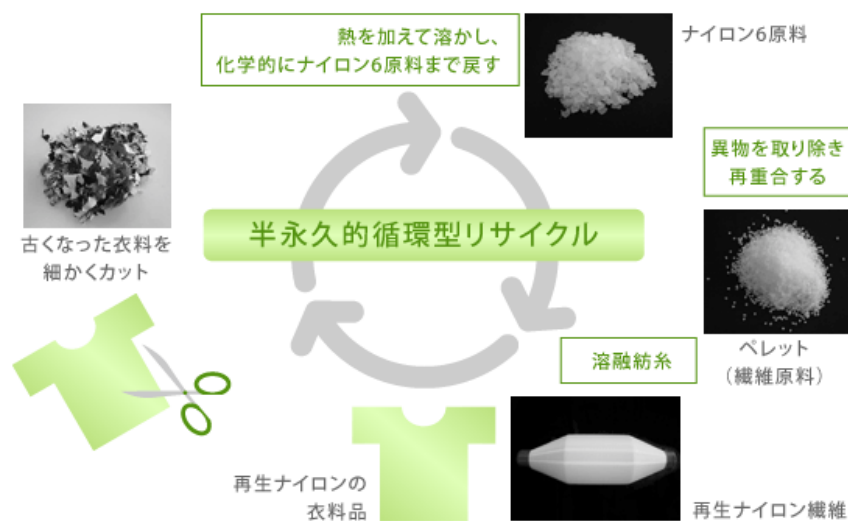
当社は多様な素材を提供するメーカーとして、これまで繊維をはじめとして様々なリサイクルに挑戦してきました。レスエナジーをリサイクルの基本コンセプトにおき、リサイクル活動指針のもと、取り組みを進めています。特にお客様との連携、ソリューションの提供に重点をおいて取り組んでいます。

【リサイクル活動指針(2004年3月制定)】

1. 東レは環境負荷の低減に配慮した製品の設計・製造販売をします。
2. 東レは環境負荷の少ない原料・製品の購入・使用をします。
3. 東レはリサイクル事業活動やリサイクル製品の情報開示をします。
4. 東レは自ら販売した製品のリサイクルや適正処理をお客様とともに取り組んでいきます。

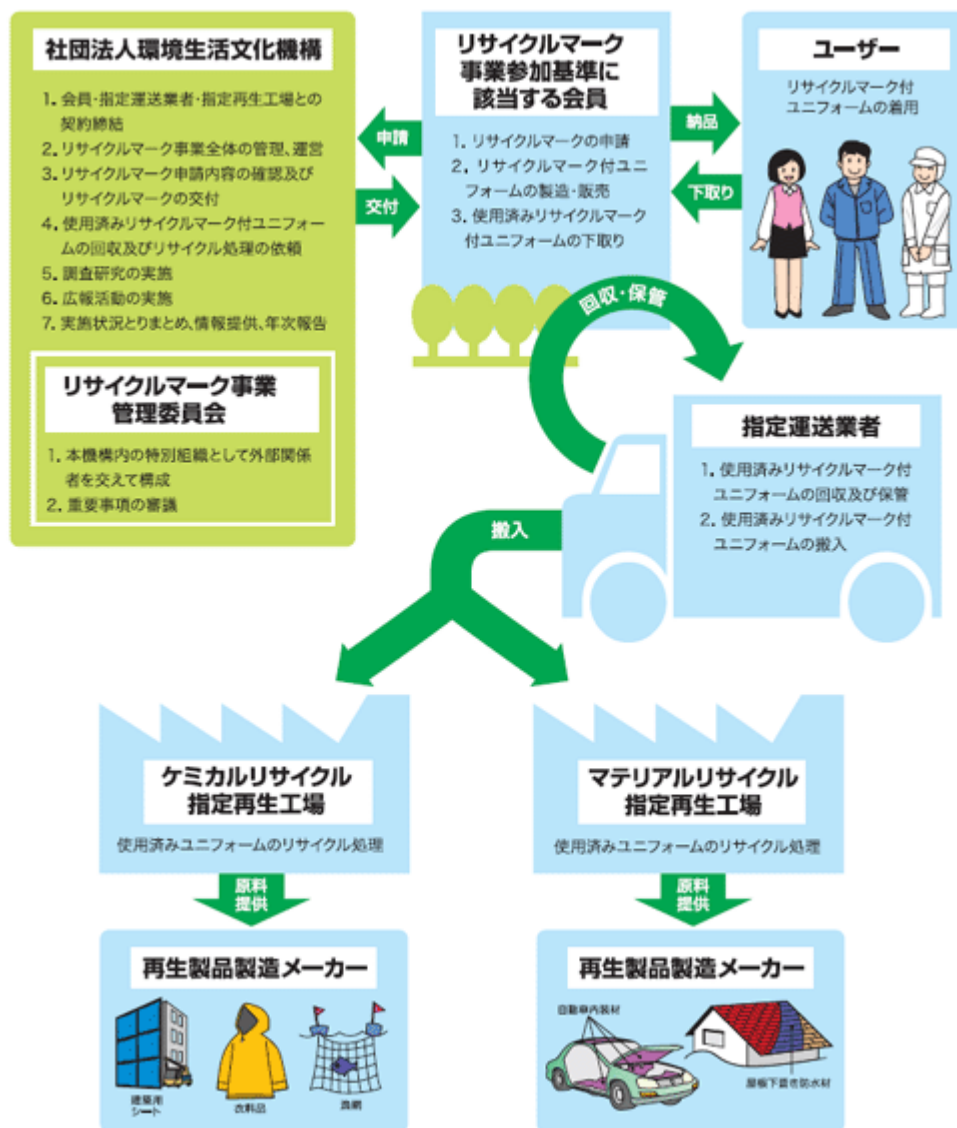
繊維リサイクルでは、全社の環境・リサイクルの活動テーマ‘エコドリーム’のもと、再生型リサイクル製品「エコユース」、回収循環型リサイクル製品「サイクリード」ブランドを設定しています。

ケミカルリサイクルについては、回収されたナイロン6繊維製品を当社工場でナイロン6原料まで戻して再重合した後、糸にする回収循環型リサイクルを本格的に推進しています。このシステムでは2007年に当社が環境省から「広域認定」を取得しています。



マテリアルリサイクルについては、ポリエステル混紡製品を中心に回収された繊維製品を社団法人環境生活文化機構指定のマテリアル再生工場へ搬入、様々な製品に再生することで省資源に貢献しています。また、このシステムでは2009年に社団法人環境生活文化機構が環境省より取得した「広域認定」を活用しています。

ケミカルリサイクル、マテリアルリサイクルはともに、社団法人環境生活文化機構のリサイクルマーク事業を活用できるシステムです。



◎ユニフォームのリサイクルシステムの歩み

- 1996年 (社)環境生活文化機構のリサイクルマーク事業開始に参加。
- 2007年 ナイロン6ユニフォームについて環境省より広域認定を取得、(社)環境生活文化機構と連携しユニフォームを元の素材へ戻すケミカルリサイクルを推進。
- 2009年 (社)環境生活文化機構がリサイクルマーク付き、ユニフォームについて環境省より広域認定を取得し、ユニフォームを新しい素材に生まれ変わらせるマテリアルリサイクルを推進することに協力・貢献。

所在地 〒103-8666 東京都中央区日本橋室町 2-1-1

連絡先 TEL : 03-3245-5073

URL <http://www.toray.jp/uniform/index.html>

日新工業株式会社（東京都）

代表者：代表取締役社長 相臺 公豊

設立：昭和18(1943)年（創業：大正11[1922]年）

活動概要

日新工業株式会社は大正11年(1922年)創業以来、故繊維と古紙を原料とし原紙を製造し、原紙にアスファルトを含浸・塗覆して防水材であるアスファルトルーフィングを製造しています。アスファルトルーフィングは戸建住宅の瓦屋根等に広く使用される防水材です。

地球環境問題が大きくクローズアップされていますが、繊維製品の3Rは遅々として進んでいないのが現状です。この大きな理由は、繊維の種類が多種にわたり選別が困難であること、衣類を解体し繊維として使用するのに多くのエネルギーが必要なこと、及び繊維として再利用する製品が限られていることが障害となっています。この様な状況の中、ユニフォームのリサイクルは、繊維の種類が明確であり、再利用が比較的容易です。またユニフォームは官公庁、企業から発生するため、環境に対する取り組みに積極的であり、衣類の分別などでの協力が得やすくなっています。

そこで、社団法人環境生活文化機構のユニフォームリサイクルシステムを利用し、建設資材メーカーとして原材料に使用済みの繊維製品を活用することにより、ユニフォームのリサイクルシステムを推進し、普及に努めています。



【(社)環境生活文化機構との協力関係】

年	事項
H8	リサイクルマーク事業（社団法人 環境生活文化機構）開始
H14	リサイクルマーク事業に参加し、ユニフォームを屋根下防水材等に再生するマテリアルリサイクルを実施
H21	社団法人 環境生活文化機構がリサイクルマーク付きユニフォームについて、環境省より産業廃棄物の広域認定を取得し、その処理を行う事業者として位置づけを確立

近年は繊維の種類も多く、合成繊維の混紡衣類が多くなり、品質の安定した原紙の製造が困難になりつつあります。

社団法人環境生活文化機構と協力し、実際に使用済みのユニフォームを新しい製品として活用するのみならず、今後、ユニフォームがルーフィング原紙の安定した原料としての可能性を探るため、研究材料として提供された使用済みユニフォームを原料として、調査・研究に取り組んでいます。

(1) 使用済みユニフォームのリサイクル状況について

社団法人環境生活文化機構では、使用済みのユニフォームを回収しリサイクルを行うシステムを確立しています。日新工業株式会社はそのシステムにより回収された使用済みユニフォームを原料の一部として、アスファルトルーフィングの原紙を製造しています。アスファルトルーフィングは、戸建住宅等の屋根の防水材として活用されます。



原 紙

下記の表は、平成 14(2002)年度からのユニフォームのリサイクルシステムを利用し、リサイクル処理を行った数量の推移です。

【ユニフォームのリサイクルシステムを利用したユニフォーム等使用済繊維製品の処理・活用数量】

年度	数 量 (枚)	年度	数量 (枚)
平成 14 年度	5,661	平成 18 年度	33,182
平成 15 年度	8,958	平成 19 年度	17,404
平成 16 年度	22,459	平成 20 年度	42,956
平成 17 年度	16,811	平成 21 年度	8,815
		合 計	156,246

(2) 調査研究について

研究資材として提供された使用済みのユニフォームを用い、アスファルトルーフィングの芯材として再生可能であることの実証などを行っています。

【施工試験の様子】



①アスファルトルーフィング



②施工模型台



③施工状況



④施工終了(暴露試験継続中)

所在地 〒120-0025 東京都足立区千住東 2 丁目 23 番 4 号

連絡先 TEL : 03-3882-2424 (代表) e-mail : katsuaki-sekihara@nisshinkogyo.co.jp

URL <http://www.nisshinkogyo.co.jp/index.html>

代表者：代表取締役社長 岩尾 崇

設立：昭和21(1946)年

活動概要

当社は循環型社会形成に対して、「環境基本方針」に基づき「環境目的及び目標」を設定し、「廃棄物の減量化とリサイクルの推進への取り組み」を、新築工事全作業所で実施しています。

【基本方針】

建設廃棄物の削減とリサイクル及び周辺環境に配慮した施工

【目的・目標】※2009年度

- ① 建設廃棄物の削減・混合廃棄物の削減 14kg/m²以下
- ② 混合廃棄物のリサイクル化・リサイクル率 63%以上

※ 目的・目標数値は、年度にて数値改定しています。

【基本理念】

「発生抑制」「再使用」「再生使用」の3Rを基本理念としています。

【廃棄物の減量化とリサイクルの推進への取り組み】

1. 啓蒙活動……啓蒙シートによる活動

※シートは、リサイクル可能な素材を採用



2. 分別管理看板・分別管理品目 19 品目を当社オリジナル看板で分別活動を実施



一例

3. 分別ヤード 工事着手前に社内施工検討会議で分別ヤードの適正配置計画を検討しています。

1 m³フレコンバック・2 m³コンテナを基本に工事進捗に応じて適配置を行い、大型コンテナを原則禁止しています。

数多くの小コンテナを配置することにより分別意識を高めています。



2 m³コンテ



1 m³フレコン

4. 品目別リサイクルルートの指定

作業所が産廃処理会社を決定する仕組みを廃止し、本社管理部門にて業者選定し、リサイクルルートを統一しています。

※指定業者……(有)大空土木、(株)共同土木、(株)タケエイ、東京ボード工業(株)、横浜エコロジー(株)、東亜建業(株)、JFE 環境(株)、(株)須賀

5. 分別教育・・当社と指定業者の共同作製による分別教育用 CD-R 作成。

- 1) 作業所の工事進捗状況「躯体工事、仕上げ工事」に応じた分別方法を CD-R にまとめ、教育内容の標準化を図っています。
- 2) 廃棄物の種目別分別方法、集積方法、容器等を「良い例・悪い例」を音声入りで紹介しています。
- 3) 工事進捗に応じて発生する品目に応じて、指定業者を講師として教育を展開しています。

＊1 作業所で 3 回の分別講習会を開催

＊年間約 7000 名・延べ約 3 万 5000 名の作業員への教育を実施。継続中

【CD-R 分別教育活動内容】

《躯体工事編》



資源分別紹介



品目紹介



良い事例



悪い事例

《仕上げ工事編》



資源分別紹介



品目紹介



良い事例



悪い事例

【効果】

2004 年より分別教育をスタートしたところ、作業員の分別意識の向上が見られ、混合廃棄物原単位は年々減少傾向を示しています。

調査年度	2004年		2005年		2006年		2007年		2008年	
調査項目	BCS平均	当社	BCS平均	当社	BCS平均	当社	BCS平均	当社	BCS平均	当社
発生原単位	34	24.7	33	28.4	34	28.3	34.5	28.3	32.7	26.1
排出原単位	28	14	26	10.9	28	12.1	27.7	12.1	26.8	11
混合廃棄物原単位	16	9.2	16	6.9	15	6.5	14.7	6.5	13.6	5.4

単位：kg/m²

＊平均値⇒(社) 建築業協会・副産物部会会員企業 23 社の原単位平均

所在地 〒105-8507 東京都港区芝二丁目 32 番 1 号

連絡先 TEL：03-3456-6324 (環境システム部) e-mail：Masatoshi_Yokomizo@haseko

URL <http://www.haseko.co.jp/hc/index.html>

株式会社 大林組 (東京都)

代表者：取締役社長 白石 達

設立：昭和 11 (1936) 年 12 月

【活動の概要】

1999 年から、電通汐留 JV (東京都港区) と丸ビル新築 JV (同千代田区) で建設現場のゼロエミッション活動を開始し、翌 2000 年に業界で初めて取り組みを公表した。

活動に際しては、「意識の共有」・「発生抑制」・「効率的分別」・「再資源化」の 4 ステップによる「ゼロエミッション手法」を構築している。建設業特有の難条件 (受注 1 品生産／建設場所の変動／大量資材使用に伴う大量廃棄物発生／多数作業員の工程毎の入れ替え／重層的生産体制) を克服するため、「意識の共有策 (組織・教育・イベント等)」を重視している点が特徴である。また、地域によっては再資源化施設の配備が不十分で最終処分量ゼロが困難という状況を考慮し、ゼロエミッション達成基準 (最終処分率 5% 以下または最終処分量 $5\text{kg}/\text{m}^2$ 以下) を設定した。

2001 年からは活動を全 11 支店に展開した。全店展開に当たり、電通汐留・丸ビル等の初期モデル現場で開発した手法 (意識共有のための組織・教育・イベント／廃棄物削減計画シート／梱包材削減・工場生産化・仮設材再使用等の削減策／分別精度向上のためのわかりやすい表示／混合廃棄物の再分別／効率的分別のための物流システム／他) を、マニュアル・ビデオで全店配布している。さらに、新築建築工事の総廃棄物 (汚泥除く)・混合廃棄物の床面積当たり排出量に中期目標を設定し、それに基づく毎年度の全店・各店目標、工事の難易度に応じて規模・用途別目標を設定した。

電通汐留 JV はゼロエミッション (最終処分 0) を達成し、数々の手法開発により全店展開の礎となり、2003 年度 3R 推進功労者等表彰で内閣総理大臣賞を受賞した。

2004 年からは土木工事にも展開し、2005 年からは全国の 1,000 を超える土木・建築全現場で活動を推進している。それに伴い、社内の副産物管理システムを再構築し、現場のゼロエミッション達成計画作成を容易にした。全国の委託先処理施設の品目毎の最新の最終処分率を登録しているので、廃棄物の品目毎に計画排出量を入力して処理施設を選ぶと、計画時に工事の最終処分率が予測でき、達成基準を満たせない場合は早期の対策を検討できる。

【活動の成果】

施工高がほぼ同じ 1999 年度と 2008 年度の排出実績 (汚泥を除く) を比較すると、新築の廃棄物排出量が 1999 年度 59 万 t ⇒ 2008 年度 15 万 t となり、これまでの削減量累計は 158 万 t。最終処分量が同じく 16 万 t ⇒ 3 万 t、削減量は計 58 万 t となった。以上による CO_2 削減効果 (収集運搬・中間処理・最終処分の減) は 2 万 5,000 t- CO_2 に及ぶ。混合廃棄物は同様に 15 万 t ⇒ 6 万 t となり削減量は計 59 万 t である。

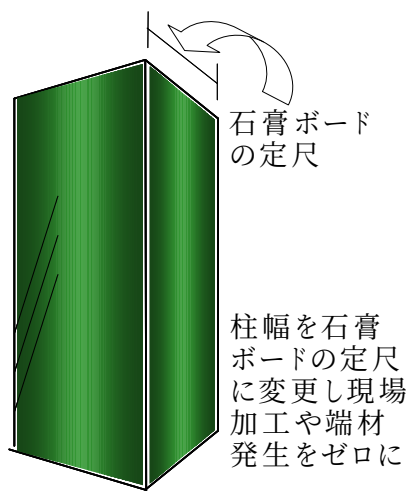
2008 年度のゼロエミッション達成率 (竣工工事で達成基準を満足した比率) は 84.2% に達し、活動を経験した多くの作業員が、次現場へ削減意識を広げている。

【活動の事例】

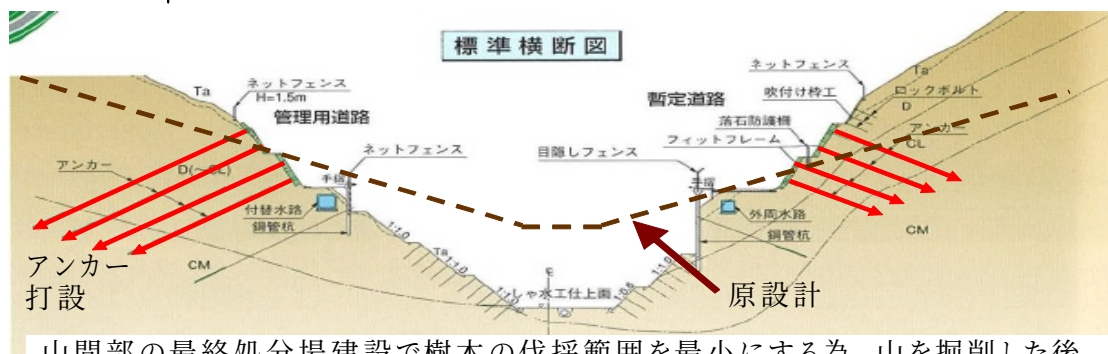
建設廃棄物削減対策シート(ゼロエミシート)

会社名	TEL/FAX 担当者		印	工事内容	空調設備工事																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
-----	----------------	--	---	------	--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

協力会社・作業毎に使用材料・廃棄物の種類・量を予測し対策・削減量を検討



ふるい・磁石等で混合廃棄物を再分別



山間部の最終処分場建設で樹木の伐採範囲を最小にする為、山を掘削した後の斜面をアースアンカーで支えて急勾配にし、伐採量と廃棄物発生量を削減

所在地 〒108-8502 東京都港区港南 2-15-2 品川インターシティB棟

連絡先 TEL : 03-5769-1002 e-mail : saitoh.masato@obayashi.co.jp

URL <http://www.obayashi.co.jp/>

株式会社 信州ウェイト (長野県)

代表者：代表取締役 小林 源吾

設立：平成元(1989)年5月

活動概要

平成元(1989)年に一般廃棄物・産業廃棄物処理業として発足以来、地元の工場発生廃プラスチック類の処理に特化し、産業廃棄物の中間処理を行ってまいりました。

平成12(2000)年までは焼却処理を行っていましたが、焼却炉を傷める原因であり、有害ガスの発生原因である塩素系、ハロゲン系廃棄物の分別をその当時より手選別にて徹底して行っておりました。

そのため分別ノウハウが早くから蓄積されていたこともあって各種リサイクルに抵抗なく移行することができ、現在ではマテリアルリサイクル、サーマルリサイクル、ケミカルリサイクルと各リサイクルルートに細かく対応できる体制を整えております。平成20(2008)年実績で全取扱廃棄物中約95%がリサイクルに回っています。

平成13(2001)年には廃プラ処理の専門工場として箕輪工場を建設し、より細かいリサイクルルートへの対応を可能とし、平成15(2003)年には地元伊北環境行政組合様、伊那市様の容器包装プラスチックの餞別、圧縮、保管業務を行っています。

また、毎年小学生から社会人の方まで約600名もの様々な方の見学があり、好評を受けています。

平成18(2006)年よりエコアクション21活動を行っており、CO₂排出抑制、環境リスクの低減、情報公開、労働安全の確保等全スタッフを挙げて環境マネジメントシステムの構築に取り組んでおります。



小学生工場見学の様子



各種リサイクルの説明風景



感想文



車両メンテナンス風景

所在地	本社：〒399-4431 長野県伊那市西春近 5806 番 箕輪工場：〒399-4601 長野県上伊那郡箕輪町中箕輪 14017-41
連絡先	TEL：0265-73-9533 (本社) e-mail：info@shinshu-wasteco.com 0265-71-3588 (箕輪)
URL	http://www.shinshu-wasteco.com/

丸硝株式会社（岐阜県）

代表者：取締役社長 堤 俊治

設立：昭和42(1967)年11月

活動概要

廃ガラスリサイクル事業を通じた循環型社会への貢献

リサイクルに余り関心が持たれていなかった頃の昭和42(1967)年に会社設立し、自治体と協力して使用済ガラスびんの回収システムを構築した。以降、使用済みガラスびんを中部地方を始め多くの自治体から資源として回収し、日本耐酸壘工業株式会社で生産する新しいびんの原料として「びんtoびん」の完全循環リサイクルを進めている。また、ガラスびんの製造時に原料としてリサイクルガラス(カレット)を使用することにより燃料の節約にも繋がり、CO₂の大幅な削減にも貢献している。廃ガラスびんの再資源化状況(回収ガラスびん)は、過去10年平均で5万9,000トン／年である。

回収した廃ガラスが全量新びん生産の原料になれば一番良いが、透明色、茶色以外のびんはびんの原料としては一部しか使えないという問題がある。当社では回収したガラスを全量リサイクルするため平成6(1994)年頃からは余剰の色付きびんやびんの原料になりにくいガラスの他用途開発としてタイルメーカーやコンクリート製品メーカーと共同でリサイクル製品を開発し、「岐阜県廃棄物リサイクル認定商品」を始め多くの製品に廃ガラスの再資源化を進めている。

平成12(2000)年からは窓サッシなどの板ガラスの加工時に発生する端材板ガラスを回収し、断熱材の原料としてリサイクルをしている。さらに産業廃棄物中間処理業許可の取得後は、従来埋め立てされていた合わせガラスや複層ガラス、建設廃材ガラスの中間処理を行い、廃ガラスの再資源化に積極的に取り組んでいる。その再資源化状況は現在年間2,000～2,500トンである。

設立当初より廃ガラスびん回収システムの構築に向けた啓発活動にも力を入れて取り組んでおり、リサイクル現場への工場見学を積極的に勧め、自治体職員、市民、小学生など毎年多数受け入れて、使い終わったガラスびんがどのように新しいびんに生まれ変わるのかなどを実際に見せながら説明をしている。

以上のように、ガラスリサイクル事業を通して、『捨てればごみ、活かせば資源』をスローガンに、ごみ減量と循環型社会形成に積極的に取り組み、事業展開を進めている。

びん to びんのリサイクルフロー



廃板ガラスのリサイクルフロー



廃ガラス製品へのリサイクルフロー



工場見学受け入れ人数

2007 年度 929 人

2008 年度 832 人

2009 年度 808 人 (12 月までの実績)

所在地 〒503-0034 岐阜県大垣市荒尾町674番地

連絡先 TEL : 0584-91-4756 e-mail : rc-marusyo@ogaki-tv.ne.jp

URL <http://www.ogaki-tv.ne.jp/~rc-marusyo/>

静岡油化工業株式会社（静岡県）

代表者：代表取締役 長島 磯五郎

設立：昭和57(1982)年4月 事業着手：昭和63(1988)年3月

活動概要

食品廃棄物の資源循環型ビジネス、バイオ燃料導入の分野で社会的な貢献が大きく、3R活動の模範となっている。

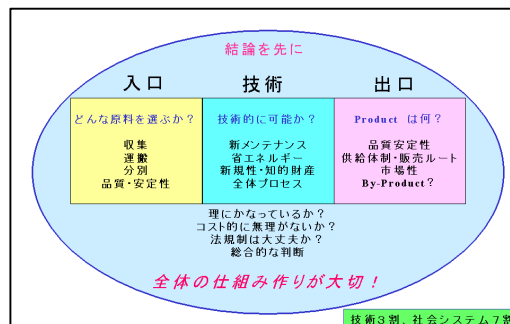
昭和63(1988)年 食品残渣(おから)飼料化

平成15(2003)年 廃食油の回収からバイオディーゼル燃料製造

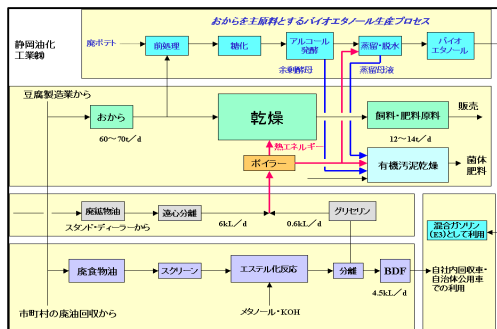
平成20(2008)年 食品廃棄物からのバイオエタノール製造とE3実証

同年 普及啓発活動を実施

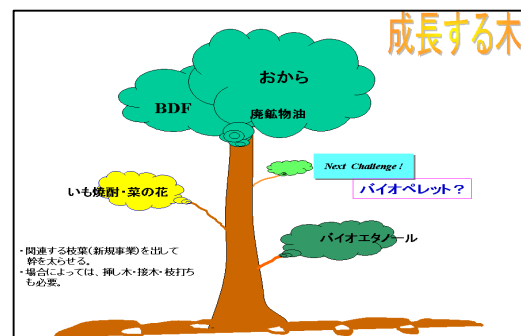
基本



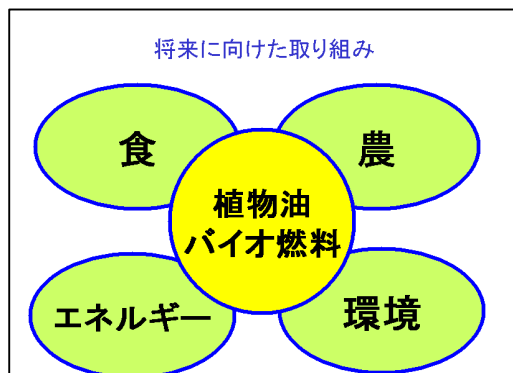
全体プロセス



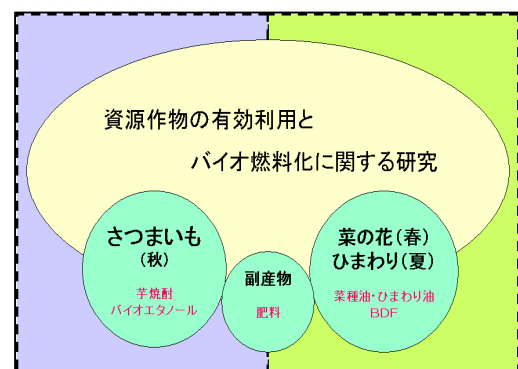
考え方



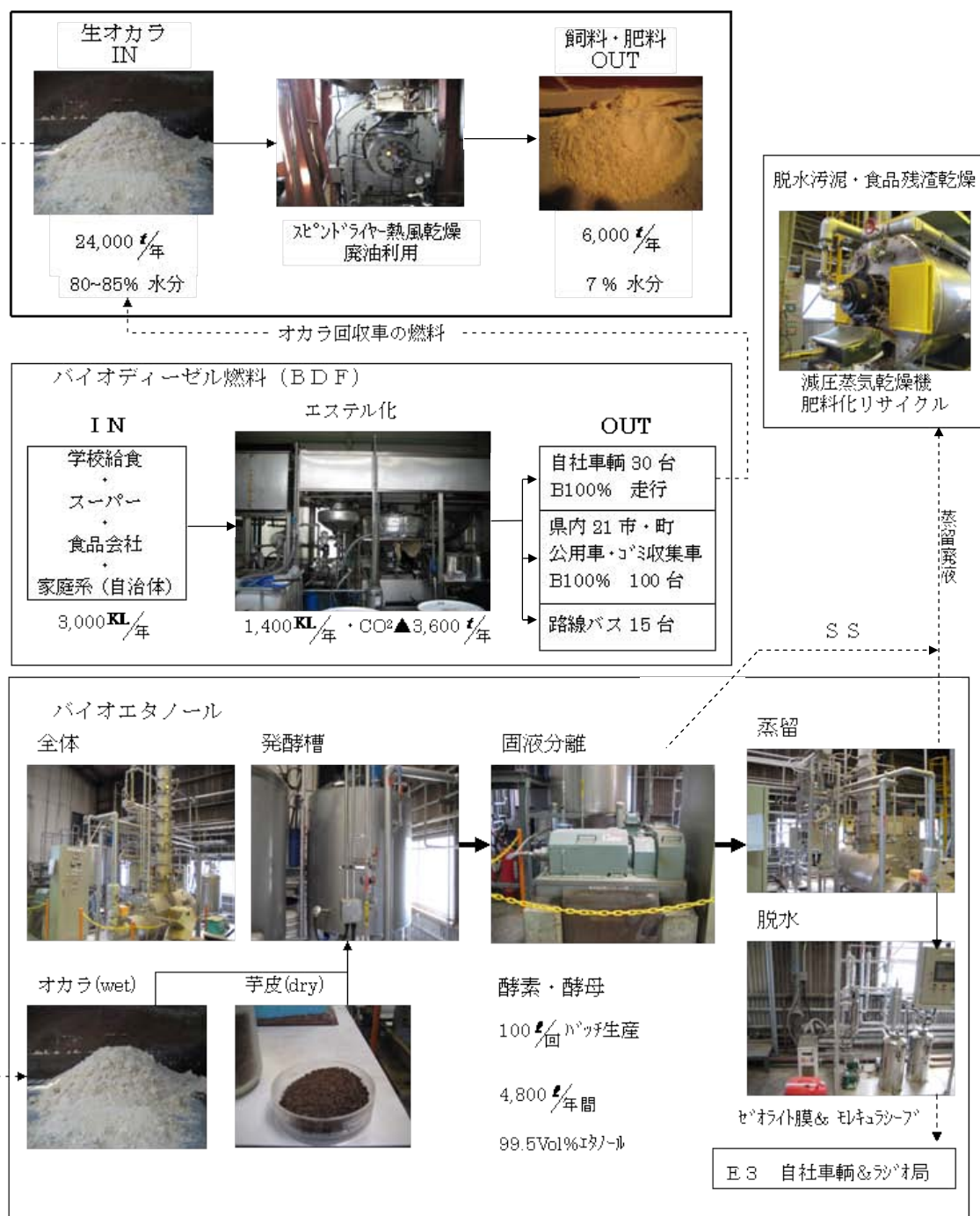
今後に向けて



6次産業創出



活動の様子(資源循環システム)



所在地 〒421-0121 静岡県静岡市駿河区広野字東割 2311-5

連絡先 TEL : 054-259-5175 e-mail : shizuokayuka@mail.wbs.ne.jp

URL <http://www.shizuokayuka.co.jp/index.html>

光アスコン株式会社（京都府）

代表者：代表取締役社長 喜多川 光矢

設立：昭和54(1979)年10月

活動概要

私たち、光アスコンは、地域社会の環境保護を第一に考え、「地球をきれいに」をモットーに、産業廃棄物を安全かつ適正に処理をする中間処理施設として、その減量化・無害化を実現することにより、人が安心してくらせる豊かな環境づくりを目指します。

また、私たちは、常に関連法規を遵守し、適正な処置をすることにより、天然資源の使用を低減することで、環境に対する社会の要望に応えられる施設でありたいと願っております。私たちは、お互いに尊敬と協調のこころをもち、従業員相互が信頼する施設でありたいと思っております。



より豊かな都市生活への環境づくりを
トータルな「力」で実現。



昭和54年：昭和54(1979)年に光工業株式会社から分離独立して設立。以来、アスファルト(1979年) ガラのリサイクル、再生アスファルト合材、再生路盤材の製造に携わってきました。

当社独自の方法により、再生アスファルト合材であっても品質の高い商品を出荷することが可能です。

昭和58年：エコマーク認定商品である YK アスコン(常温合材)の製造を開始。製造メーカー(1983年) は当社の関連会社である光工業であります。常温合材は世の中に数々あれど、エコマーク認定商品は YK アスコンのみであります。

平成14年：京都府知事より廃棄物再生事業者として登録されました。やはり、廃棄物処理事業(2002年) に関わっている以上、再生ということは避けては通れない分野であるという認識は強く持っております。これからも様々な再生に関わっていきたいと願っております。

平成17年：産業廃棄物である廃プラスチックと紙くずから製造する RPF(固形燃料) 製造工場(2005年) をスタートさせました。石炭の代替燃料として注目されております。紙くずを使用していることから、発生する CO₂ の排出量はバイオマス率(カーボンニュートラル) に応じて削減できます。また安価であること、残渣物が石炭の15%に比べて、5%と少ないことなど、一石三鳥ほどのメリットがあります。

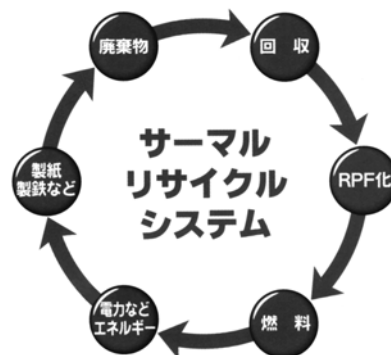
平成23年(予定)：現在、光アスコンクリーンセンターの焼却炉の建て替え工事を計画中であり、この計画の中に焼却炉の廃熱をアスファルトプラントの砂乾燥および骨材乾燥に利用するサーマルリサイクルを盛り込んでおります。

RPFの製造そして用途と将来性

(京都府廃棄物再生事業者登録)

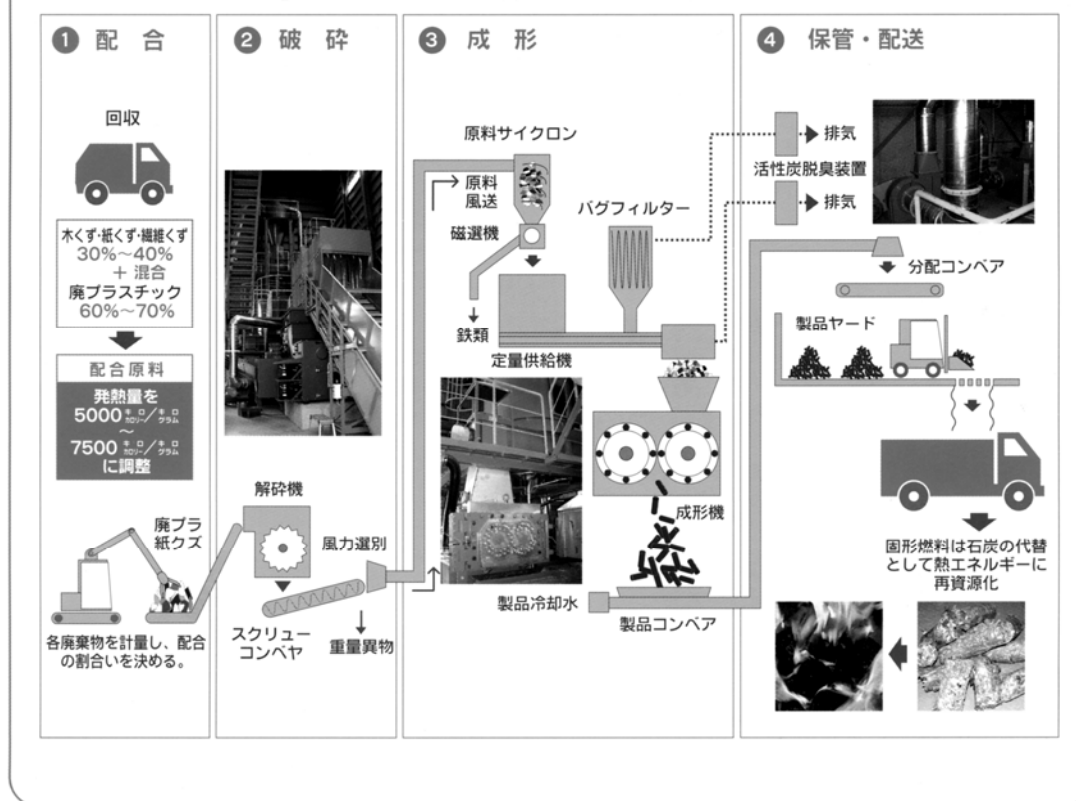
～サーマルリサイクルシステム～

RPFとは「Refuse Plastics・Paper Fuel」すなわち「プラスチック及び紙から得られる燃料」の略で、産業廃棄物を主体とし、特定の事業所から排出されるプラスチック・紙を原料としています。資源エネルギーを輸入に頼っている日本にとって、RPFは重要な資源であり、すでに製紙産業、セメント産業、鉄鋼産業等の熱エネルギーを利用する産業での廃棄物燃料として、導入が活発になっています。燃焼カロリーが安定(石炭と同等)になると共に、輸送性や貯蔵性が向上するなど燃料として使いやすくなる多くのメリットが生じます。これによってエネルギー回収の優れた多様なシステムが実現することが可能となり、循環型社会の形成をめざすことができます。



RPF製造ラインシステムフローチャート

[スクリュー式 一日当たりの処理生産能力 60t]



所在地 〒612-8244 京都府京都市伏見区横大路千両松町 78

連絡先 TEL : 075-601-2311 (代表) e-mail : y.yoshida@hikari-asukon.jp

URL <http://www.hikari-asukon.jp/index2.html>

代表者：代表取締役 山口 義弘

設立：昭和51(1976)年6月（創業：昭和45〔1970〕年5月）

活動概要

弊社は、清涼飲料を製造している工場です。茶系飲料水の製造時に排出される茶殻を産業廃棄物として専門業者で依頼処分していましたが、人と地球にやさしい環境活動として廃棄物の減量を目指し、再利用化する研究開発に取り組み、自社において茶殻だけを原料とした有機堆肥化に成功しました。今後も、茶殻の乾燥化を研究し、飼料などに再利用できる研究開発に取り組み、社会に貢献する環境活動を目指します。

(1) 茶殻の有機物堆肥化活動

平成18(2006)年6月に製造工程により排出される廃棄物の茶殻を原料とし、100%茶殻による有機物堆肥化試験研究を開始しました。平成19(2007)年5月まで4t/月程度の試験を行い成功しました。以後、堆肥化試験量を徐々に増やし、同年7月より本格的に堆肥化事業を開始し、毎月製造工程より排出している350tのうち、約1/3(120t/月)を自社において、有機物堆肥として生産しています。将来、生産量を増やし廃棄物の減量を目指します。

(2) 茶殻の乾燥による飼料化の試験研究

平成21(2009)年9月から茶殻を原料にし、飼料化の試験研究を開始しています。排出される茶殻(水分率約70%)をビニールハウス施設内の網コンベアー上に敷き、太陽熱を利用し天日干し(送風機で茶殻に風も当てる)で乾燥化の試験研究を行っています。現在、試験量(200kg/日)はわずかですが、1～2日で水分率12%になっています。今後、処理量を増やすために工場より排出される排熱(送風時の熱風)などを利用する研究開発に取り組み、環境にやさしい活動を目指します。



茶がらの堆肥化フロー図



所在地 〒679-2131 兵庫県姫路市香寺町犬飼 527-1

連絡先 TEL : 079-232-3111

URL <http://www.kinkisain.co.jp/index.htm>

泉興業株式会社（兵庫県）

代表者：代表取締役 泉原 保二

設立：昭和50(1975)年7月23日

活動概要

当社は、昭和33(1958)年の創業以来、廃棄物の収集運搬・処分、再生資源の流通、貯水槽・浄化槽・排水管の清掃など、一貫して環境業務に携わって参りました。経営理念として「廃棄物の適正処理・リサイクルを通じ、人と自然の新しい関係を構築する。」ことを掲げ、平成7(1995)年4月に堆積発酵による有機性廃棄物の肥料化施設を、平成11(1999)年5月に廃プラスチック類・金属くずの破碎・リサイクル施設を完成・稼働させました。

直近では平成22(2010)年2月に木くずのチップ化施設(燃料用チップ・肥料原料用チップの製造)及び廃プラスチック類他の減容固化施設(RPFの製造)を増設し、排出事業者様から預かった廃棄物を自社完結型で有価物化する取り組みを通じて、循環型社会の形成に寄与することを目指しております。

また、平成7(1995)年の阪神・淡路大震災での廃棄物集積・復旧作業、平成16(2004)年の豊岡市他台風水害、平成21(2009)年の佐用町他台風水害での廃棄物搬送を行うなど、地域社会への貢献を念頭に置いて、災害廃棄物の適正迅速な撤去処分を行いました。

活動の様子

1.有機性廃棄物の肥料化



発酵ヤード



製品

兵庫県小野市にある小野リサイクルセンターでは、有機性汚泥(主に食品製造業の排水処理余剰汚泥)と木くず(主に伐採樹木のチップ)を混合し、堆積発酵させた有機質肥料「地球村」(農林水産省登録 汚泥発酵肥料)を製造しております。

特別な菌を使用することなく、適宜切り返しを行って自然に熟成させた肥料ですが、そのため却って生育障害などを起こすことがなく、好評を得ております。

この実績などが認められ、宝塚市の公共リサイクル施設である「緑のリサイクルセンター」において、場内に当社の機材を持ち込んでの植木・剪定枝のチップ化及び堆肥化リサイクル事業を受託しています。

2.燃料化・複合リサイクル



第 1 工場



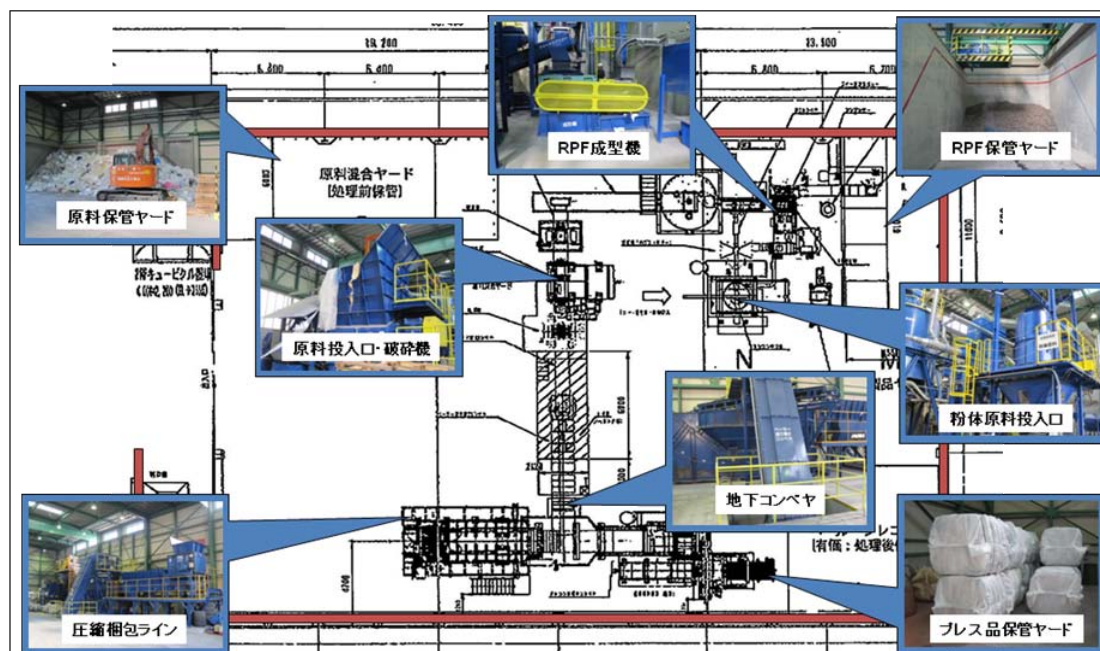
第 2 工場

兵庫県尼崎市にある末広リサイクルセンターでは、第1工場で木くずの燃料用チップ・肥料原料用チップ製造を、第2工場において廃プラスチック類を中心とした可燃性廃棄物の固形燃料 (RPF) 製造を行っています。

固形燃料化施設は、粉体原料投入ラインを備えているのが特徴で、トナーやオガ粉といった粉塵が懸念される廃棄物も取り扱いが可能です。さらに、圧縮梱包機を併設しており、高品質のプラスチックについては樹脂原料として出荷し、マテリアルリサイクルにも取り組んでいます。

その他にも、金属くず・ガラス陶磁器くず・がれき類等の破碎施設、石綿含有産業廃棄物を含む積み替え保管施設を保有し、複合リサイクル施設としての機能を果たしています。

第 2 工場配置図



所在地 〒660-0051 兵庫県尼崎市東七松町 1 丁目 15 番 20 号 泉ビル

連絡先 TEL : 06-6488-5005

URL <http://www.izumi-group.co.jp/>

倉吉環境事業有限会社（鳥取県）

代表者：代表取締役 大川 和彦

創 業：昭和34(1959)年4月

活動概要

弊社は、平成17(2005)年3月ISO14001を取得して以来、住みよい地球環境を次世代へ継承することを重要課題と認識し、自然との調和に配慮した企画活動を積極的に行うことを基本理念としてきました。また、バイオマスエネルギーの利活用を目標に活動を推進してきました。

地域に対しては、積極的にイベントへ参加するとともに年に一度、一斉清掃をして地域に貢献しています。また、次世代を担う子どもたちへの環境学習支援を行っています。



活動内容としては、鳥取県中部地区を中心に1市3町（倉吉市、北栄町、琴浦町、湯梨浜町）の一般家庭から出る使用済み天ぷら油（廃食用油）の無償回収を行っています。

また、個別に飲食店等に専用容器を貸し出し、月2回の頻度で回収しています。回収量は月平均約5000kgになります。回収した廃食用油はバイオディーゼル燃料としてリサイクル化され、1市3町の社会福祉協議会の送迎用バスやスクールバス、自社の廃油回収車等に使用しています。



廃食用油回収

平成19年 1月 倉吉市と協定書を締結し、回収を始める。

同年 5月 北栄町と協定書を締結し、回収を始める。

平成20年 5月 琴浦町・湯梨浜町と協定書を締結し、回収を始める。

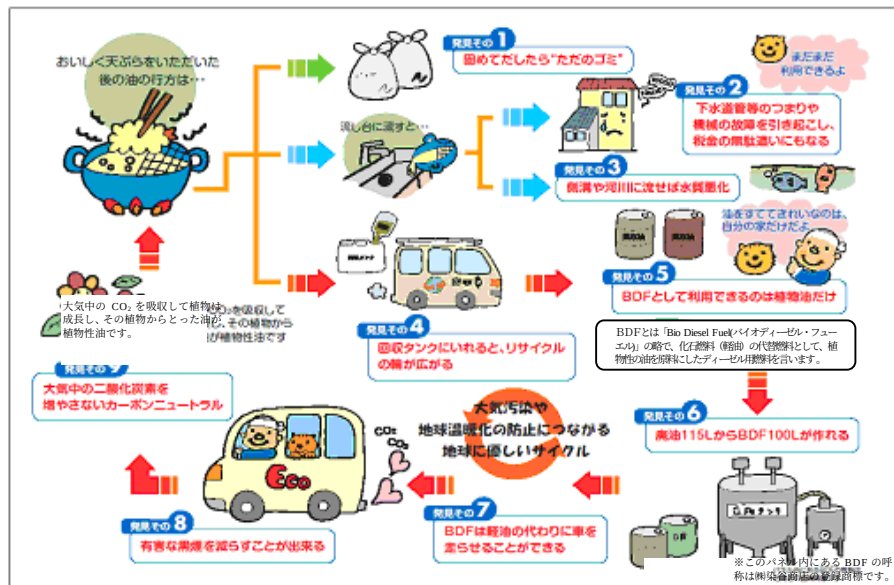
平成21年 3月 鳥取県循環型社会推進功労者知事表彰受賞

原料となる廃食用油とメタノールをリサイクル装置に入れ反応させます。反応後、メチルエステルと沈殿物(グリセリン)ができます。反応油の上半分のメチルエステルがバイオディーゼル燃料となります。



製造過程

反応直後のバイオディーゼル燃料には、まだ不純物が含まれており、半日程度静置させた後、分離を行い、製品として販売します。



みなさまに、廃食用油リサイクルのことをもっとよく知ってもらうために、弊社では環境学習支援や施設見学会を開催しています。幼稚園、小学校、女性部、リサイクルに関心のある方などが見学に来られます。

今後の課題としては、バイオディーゼル燃料の製造過程でグリセリンとよばれる副産物が出ます。バイオディーゼル燃料の需要の増加とともに、この廃グリセリンを有効活用するための技術開発や適正処理などが問題となってきます。

また、廃食用油を自動車の燃料のみならず、ディーゼル発電機やビニールハウスの加温ボイラーの燃料などとして、利用方法の開拓を進めたいと考えています。



所在地	〒682-0875 鳥取県倉吉市金森町 19 番地の 1
連絡先	TEL : 0858-22-5868 e-mail : mailbox@kurakan-co.jp
URL	http://www.kurakan-co.jp

大塚製薬株式会社 徳島ワジキ工場（徳島県）

代 表 者：工場長 山口 貴司

操業開始：平成元(1989)年

活動概要

1. 工場の概要

大塚製薬株式会社徳島ワジキ工場は、徳島県南部の那賀川の清流に沿った緑豊かな丘陵地に立地し、地域に開かれたファクトリーパーク（公園工場）をコンセプトとしています。



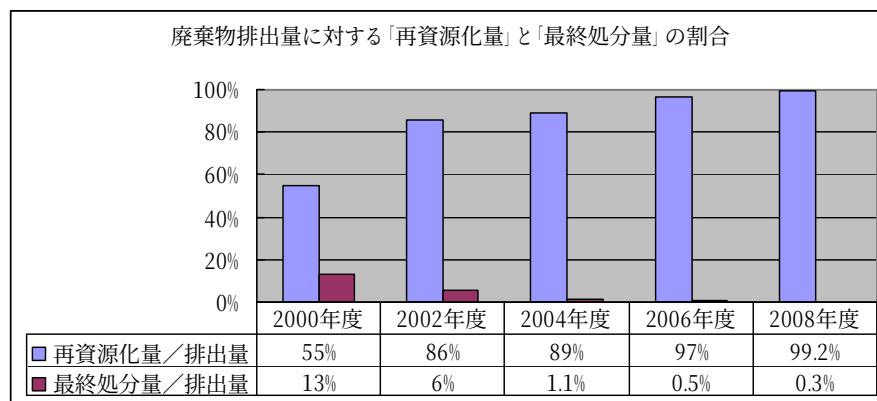
平成元(1989)年に操業を開始し、現在は医薬品製剤と栄養補助食品（カロリーメイトブロック）を生産しています。平成10(1998)年に日本緑化センター会長賞を受賞。平成13(2001)年3月にISO14001を取得し、平成18(2006)年に徳島県の3Rモデル事業所の認定を受けました。平成20(2008)年度の従業員数は約130名。廃棄物排出量は383t（食品工場の廃棄物が約90%を占めています）。

2. 取り組みとその内容

(1)ゼロエミッションの達成

平成19(2007)年度に廃棄物の「ゼロエミッション」を達成し、現在も維持しています。主な廃棄物は、医薬品工場ではガラス屑（アンプル及びバイアル瓶）で、セメント原料や道路路盤材として再資源化しています。食品工場では食品屑が多く発生し、養豚業者の飼料や発酵させて肥料として利用しています。その他、廃プラスチックは熱利用による大規模トマト栽培、または「固形化燃料」として利用。社員食堂の生ゴミは生ゴミ処理機を導入して肥料化し、工場敷地内の緑化を促進しています。

※当工場のゼロエミッション：廃棄物排出量（有価物含む）に占める再資源化量を99%以上とする。



(2) 廃棄物や化学物質の使用量の削減

排水処理施設の汚泥を曝気槽等に返送して循環・消化を行い、発生量を減少させました(2008年度/2000年度=1/7)。それに伴い、凝集沈殿剤と中和剤も使用量を減少させることができました(2008年度/2000年度=1/4)。

(3) 環境活動等を通じての社会貢献の推進

①リバーアドプト活動

地元の3団体と合同で、那賀川の河川敷を清掃する「リバーアドプト活動」を平成15(2003)年度に始め、流域の廃棄物を回収し、分別・リサイクルを実施しています(2008年度:参加者245人、回収ゴミ228kg)。

※リバーアドプト:河川の一定区間を参加団体で引き受け、美化清掃などを行う活動

②どんぐりプロジェクト

県南部に植生する樹木の遺伝子を持つどんぐりを育苗し、植林する、徳島県の『どんぐりプロジェクト』に、2006年度より参加しています。



③地域の協議会に参加

徳島県南部の産官学民が協力して環境保全活動について考え、行動する協議会『みなみから届ける環づくり会議』に参加し、平成20(2008)年度は河川の水質一斉調査を実施しました。

④野外コンサートの共催

毎年(8月)に地元那賀町の方々と協力し、野外音楽コンサートを開催。廃棄物は分別して再資源化しています。



この度の受賞に際し、行政並びに地域の多くの方々のご協力を賜りましたことに深く感謝致します。今回の受賞を励みにこれからも環境保全活動を通して、地球温暖化防止や地域社会への貢献に努めてまいります。

所在地 〒771-5209 徳島県那賀郡那賀町小仁宇字大坪 306-2

連絡先 TEL : 0884-62-3181 e-mail : kano@otsuka.jp

URL <http://www.otsuka.co.jp/company/production/factory/tour/wajiki/index.html>

リコー関西株式会社 四国支社（香川県）

代表者：四国支社長 高山 利弘

設立：昭和42（1967）年1月

活動概要（表彰に関する功績の概要）

【事業概要】

リコー関西株式会社は、関西・四国地域を担当し、リコー商品を中心としたトータルソリューションをお客様に提供している、株式会社リコー100%出資の販売会社です。四国支社は四国4県を担当しています。私たちは地球市民の一員として、リコーの環境経営の基本姿勢に基づき、かけがえのない地球を守ることを企業使命として考え、あらゆる側面に環境マネジメントシステムを導入し、事業活動における環境負荷を、自然環境が許容できる範囲に近づけることを目標とした環境保全活動に取り組んでいます。



【四国支社内事業所の主な取り組み】

IT経営の実践からペーパーレスオフィスの創設と、事業所から発生する廃棄物 100%再資源化により3R化推進を図る。

【取り組みを始めた経緯】

- ①平成13（2001）年、リコーグループ全体でISO14001取得。環境マネジメントプログラム推進強化により、省エネと廃棄物の削減に取り組む。
- ②省エネは仕組みが構築でき、改善が図れたが、廃棄物の削減が思うように進まず、事業所全体で再資源化 100%に向けた取り組みを開始。
- ③平成15（2003）年8月香川事業部の新事務所への移転を機会に「IT経営の践」による『環境に優しい事務所』づくりを目指し、ペーパーレスオフィスと事業所から発生する廃棄物の 100%再資源化をスタート。その後、四国内3事業部へ展開。

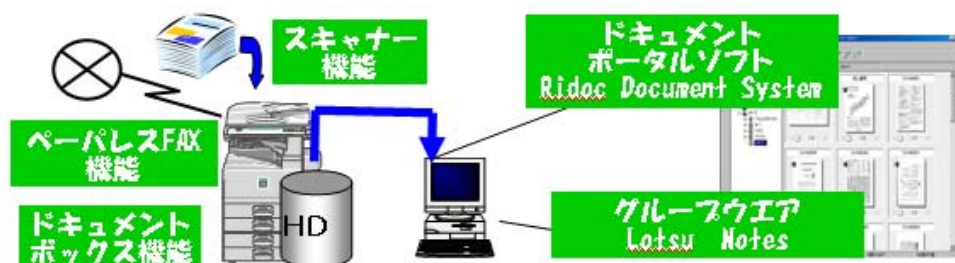
【具体的取り組み内容】

<ペーパーレスオフィス>

- ① ペーパーによる書類は弊社複写機（コピー・プリンター・FAX・スキャナー）により、一度スキャナー機能でデータとして取り組み、パソコンにて管理。契約書等原紙保管が必要な書類以外はパソコンサーバーにて共有化を図る。



- ②FAXの受信資料はペーパーにてアウトプットせず、全てパソコンに取り込み、担当者のパソコンへ配信。送信も極力メールにて対応
- ③電話メモはパソコンの伝言機能を活用し、ペーパーには打ち出さない。
- ④商品マニュアル、教育資料、販売資料、社内資料、会議資料等はペーパー活用を中止、パソコンサーバーにて集中管理。



<事業所から出る廃棄物 100%再資源化>

- ①徹底した分別の仕組みを構築。
- ②個人のごみ箱の廃止
(四国4県16事業所全て廃止)
- ③分別コーナーを1カ所に集約
(1フロア約90名が働く)
- ④掲示板に分別事例を現物展示し、誰が見ても分別できる仕組み構築
- ⑤廃棄物を再資源化できる業者を徹底して探す。
- ⑥100%再資源化の仕組みは四国4県16事業所の内、13事業所で展開。



【地域への展開】

- ①四国4県4事業部のオフィスは、各県知事による「環境配慮型モデル事業所」「3Rモデル事業所」等として認定を受け、循環型社会形成への取り組みを推進。そのノウハウを「ライブオフィス」を通じて、広く地域企業・団体・官公庁へ公開。各事務所の3R化課題解決の場として活用されています。
- ②その他の環境保全活動として、全事業所の周りを定期的に清掃。また、香川・徳島・高知にて森林保全活動実施。愛媛は河川の保全活動を実施。

所在地 〒760-0017 香川県高松市番町 1-6-8 高松興銀ビル 4F

連絡先 TEL : 087-822-1001 四国支社経営管理部CSR推進課 松浦秀貴

URL <http://www.r-kansai.ricoh.co.jp/>

株式会社 ビッグベアーズフーズサービス (福岡県)

代表者：代表取締役 魚本 法一

設立：昭和61(1986)年

活動概要

◎当社のエコ活動

当社は北九州市を中心に20の宅配ピザ店を展開しており、エコ活動としてピザの空き箱、ドリアやグラタン用容器皿を回収する制度を導入している。

家庭ごみとして捨てられる空き箱の量も増えるにつれ、リサイクルの必要性を痛感し、平成9(1997)年頃から宅配員にピザの空き箱を返すと、10円を返却するデポジット制度を取り入れた。2004年頃からは、ドリアやグラタンについても容器をアルミ皿から、陶器皿に替え、50円で引き取るサービスを導入した。

陶器は全店舗で平均年間8000個の利用があり、回収率は約60%の実績がある。

こうした活動の中で、高齢者が古新聞や古雑誌を持ち出すのに苦労しているのに気づき、平成18(2006)年頃から宅配時にサービスで回収を行っている。

◎これまでの取り組み

平成9(1997)年 ピザ箱の回収サービスを導入

平成16(2004)年 アルミ皿から陶器に替え、回収サービスを導入(デポジット制)

平成18(2006)年 古紙回収のサービスを実施

平成19(2007)年 北九州市3R活動推進表彰(3R活動推進賞)

平成20(2008)年 福岡県知事表彰(循環型社会形成推進功労者)

BIG BEAR'S PIZZA NEWS ビッグベアーズのエコ活動

資源を大切に、リサイクル活動で
子ども達の未来を守ろう。

1 使い捨ては少しでも少なく

ビッグベアーズのドリア・焼きカレー皿はアルミをやめて、陶器皿を使用しています。

陶器ご返却で50円お返しします。
ご協力をお願いします。



2 ピザ箱やお店で使ったダンボール・古紙をリサイクルしています。

捨ててしまえばゴミ。
でもリサイクルすれば再生紙として再利用されます。ピザ箱は1つで10円お返しします。



1回分の回収は
高さ25cm以内
におまとめください。

ご家庭の古紙も回収しています。

ピザご注文の際に、
「古紙回収お願いします」と
お申し付けください。

■古紙回収は平日のみの
サービスとなります。

3 食材・資材も大切に。声かけ運動に取り組んでいます。

配達時におしぼり・スプーン・フォーク等のご利用をおたずねします。
ご家庭のマイフォーク等でお召し上がりの方はお申し付けください。



食育活動をしています。

【幼稚園・保育園出張手作りピザ教室】

自分の手で作り、自分で食べる基本的な事を大切にします。
ピザ作りで好き嫌いも克服！
ピッキー号で出張します。手作りピザを体験しよう！

担当/野村(093-941-8171)

職場体験活動をしています。

市内の小学生・中学生の皆さん
にお店でピザ作りや接客を体験
してもらっています。

知的障害者研修の受け入れをしています。

知的障害者の方々の
“働きたい”という意
欲を大いに発揮して
頂いています。

街角パトロール隊を結成しました。

地元警察と連携し、配達途中不
審者を見かけたり、市民に助けを
求められた場合、即時通報してい
ます。



BIG BEAR'S PIZZA

所在地 〒802-0062 福岡県北九州市小倉北区片野新町 3 丁目 1-8

連絡先 TEL : 093-941-8171 e-mail : info@bigbears.co.jp

URL <http://www.bigbears.co.jp/>

シタマ石灰有限会社（福岡県）

代表者：取締役社長 舌間 常雄

設立：平成元（1989）年5月 法人化（創業：明治20〔1887〕年5月）

活動概要

廃棄される乾燥剤を有効活用した乾燥剤リサイクル肥料の開発

弊社は、明治創業以来、一貫して無機・有機石灰、有機肥料など農業用土壌改良剤を製造販売して参りました。

従来の石灰肥料は粉末状で飛散しやすく、作業性や目に入った場合など安全性に問題があり、平成18（2006）年度福岡県中小企業経営革新計画承認を受け、「環境に優しい造粒型消石灰の開発及び生産」に着手しました。

また、平成19（2007）年度福岡県中小企業経営革新促進補助金により、造粒型消石灰製造装置の整備を行いました。

開発の過程で、乾燥剤メーカーより規格外品の乾燥剤が産業廃棄物として高額費用で処理されていることを聞き、福岡県リサイクル総合研究センターのコーディネートの下、平成19（2007）年8月「乾燥剤リサイクル研究会」を発足し、再利用の研究に着手しました。

研究会メンバーには乾燥剤メーカーや商品化に必要な規格試験を行う福岡県工業技術センターはもちろんのこと、将来的な事業化をにらみJA全農ふくれんをオブザーバーに加え、仕入れから販売まで連携する体制を整えました。

乾燥剤中の石灰は純度が高く高品質ではありますが、リサイクルする上で、乾燥剤の分別保管、乾燥剤中の石灰の取り出しや活用方法、新製品の品質問題、販売網などに課題がありました。

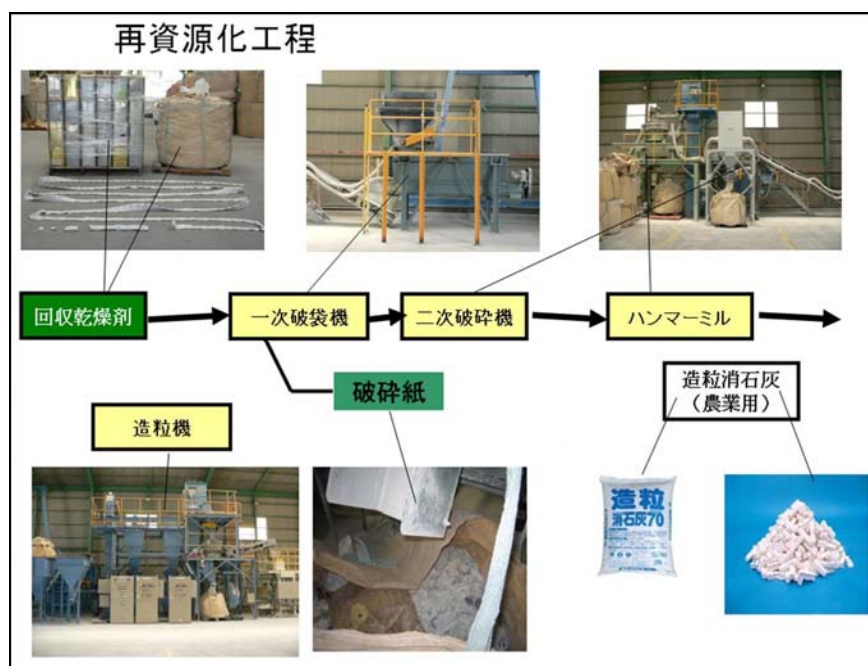
それらの課題もメンバーの連携による役割分担で解決することができ、平成20（2008）年3月産業廃棄物処分業（中間処理）許可を取得し、福岡県内で発生していた廃棄される乾燥剤年間約120tを受け入れる体制が整いました。

新製品の乾燥剤リサイクルによる造粒型消石灰は、福岡県の肥料登録を受け、従来品に比べて高付加価値を有し、販売網も整えていたので、需要拡大に備え、平成20（2008）年度福岡県リサイクル施設整備費補助金により製造能力の増強を図りました。

今後は、福岡県内にとどまらず全国の乾燥剤メーカーから廃棄される乾燥剤を受け入れ、全てをリサイクルすることで循環型社会の推進に貢献すると共に、化石燃料の使用量減量化に寄与することで地球温暖化の防止に貢献していき（※）、人に優しく環境にも優しい企業理念を実践していきます。

（※石灰乾燥剤の原料は石灰石を高温で焼いて作られます。）

事業年度	平成20年5月 ～平成21年4月	平成21年5月 ～平成22年4月	平成22年5月 ～平成23年4月（計画）
生産・ 販売数量	1,000トン (50,000袋)	3,000トン (150,000袋)	4,000トン (200,000袋)
売上金額	22,500千円	67,500千円	90,000千円



造粒消石灰70
アルカリ

機械散布もOK!!
飛び散らず、まきやすい!

●飛び散りを防止
粒状になっておりますので、飛散防止ができ、風の強い日でも安心して散布ができます。

●しっかり分散・浸透
散布後は、容易に崩壊して土壌に分散・浸透し、肥料効果を高めます。

●すばやい効果
従来の消石灰と同じ即効性ですので、ねらいどおりの酸性矯正ができます。

特許出願中

施用方法および量(10アール当り)

水田	5袋
野菜	6袋
果物	8袋

※注意：開封後は崩壊する場合がありますので使いきるか、石灰が残った場合は密封して保存してください。

供給 JAグループ 製造元 シタマ石灰有限公司

- ・平成20年度福岡県循環型社会形成推進功労者知事表彰
- ・平成21年度九州環境ビジネス大賞 優秀賞受賞
- ・平成21年度循環型社会形成推進功労者 環境大臣賞受賞

平成 20 (2008) 年 7 月
新商品の生産による新事業分野開拓事業
業者認定 (福岡県)

平成 20 (2008) 年 10 月
平成 20 年度福岡県循環型社会形成推進
功労者知事表彰

平成 21 (2009) 年 10 月
循環型社会形成推進功労者環境大臣賞
受賞 (環境省)

平成 21 (2009) 年 10 月
第 2 回九州環境ビジネス大賞優秀賞受賞
(K-RIP/九州経済産業局)

所在地 〒822-0121 福岡県宮若市湯原 547 番地

連絡先 TEL : 0949-54-0329 e-mail : shitama-sekkai@mirror.ocn.ne.jp

URL <http://shitama.co.jp/>

有限会社 鳥栖環境開発総合センター（佐賀県）

代表者：取締役社長 宮原 敏也

設立：昭和39(1964)年5月

活動概要

佐賀県鳥栖市内において3R活動や資源循環活動を長きにわたり取り組んできました。現在では廃食用油燃料化や食品廃棄物のメタン発酵発電、および堆肥化等バイオマスエネルギー利活用の取り組みを積極的に行い、循環型社会の形成に貢献してきました。また、他自治体等からの視察受け入れや環境フォーラムでの事例発表でPRを行うことにより、リサイクルの啓発活動にも積極的に参加しています。

有機性廃棄物を処理する過程においてバイオマスエネルギーを生成し、得られたエネルギーを「複合的」に利活用することにより、複数の処理施設を運転管理し、前工程で排出される副産物を次工程で再利用するというように、連鎖的に資源を最大に有効活用しています。

鳥栖市内の小中学校の給食センターから排出される残飯や事業所の生ごみをメタン発酵して発電、自社リサイクル設備の電気として有効活用しています。

木質バイオマスを用い、水素を主体としたガス燃料を生成し、浄化槽および下水汚泥の乾燥に利用しています。

市民が分別排出した廃食用油を回収してバイオディーゼル燃料をつくっています。その燃料で自社ごみ収集車を走らせ、地域循環利用し、市民もそれを身近に見ることができます。

資源物のリサイクルを推進し、小学校などで環境教育を実践しています。今後もバイオマス等の資源、エネルギーの「地産地消」を念頭に地域社会へ貢献することができればと考えます。

◎これまでの取り組み

平成10(1998)～汚泥の堆肥化

平成11(1999)～廃食用油からVDFの製造開始

平成13(2001)～発泡スチロールをプラスチックの原料としてリサイクル

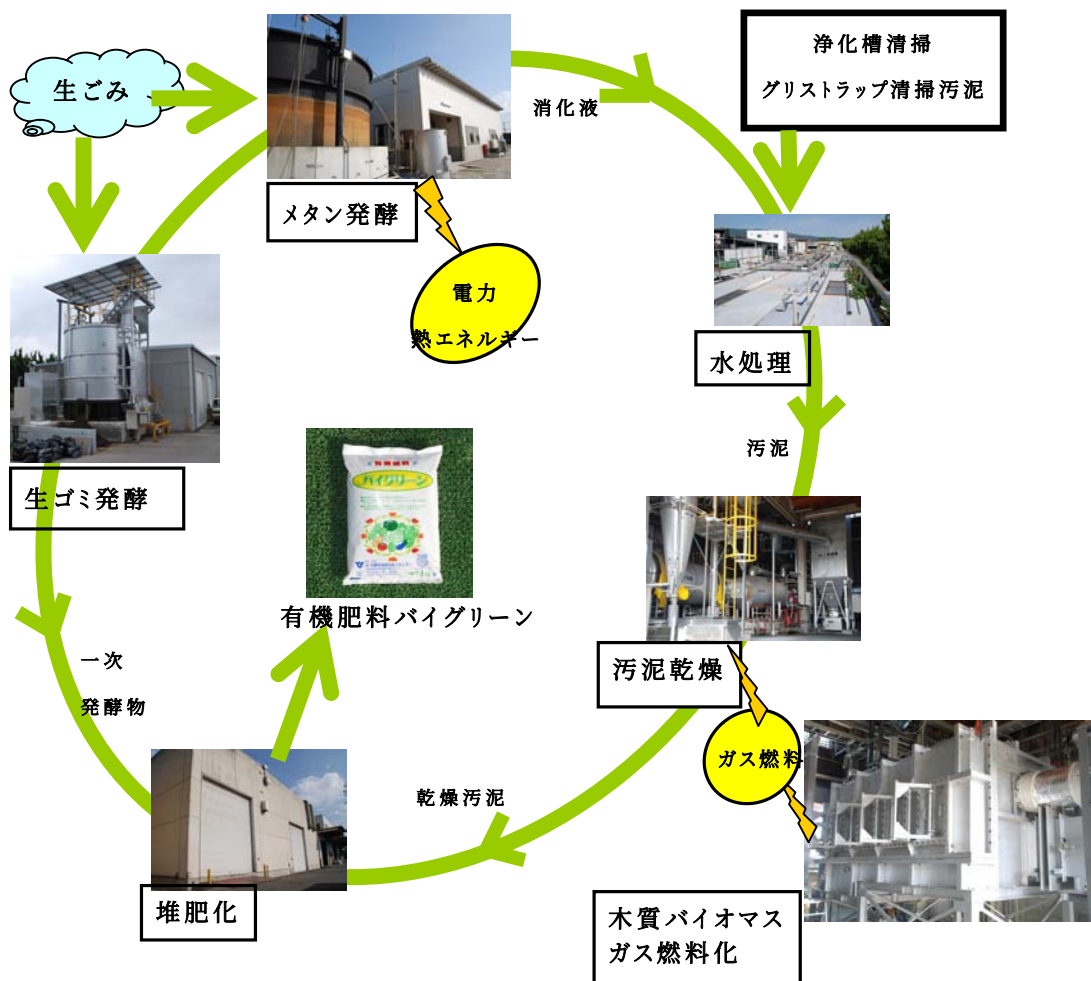
平成14(2002)～給食ごみのリサイクルの推進

平成17(2005)～再生利用登録業者に登録され、生ごみリサイクルの推進

メタン発酵施設を活用し発電を行い自社施設で利用

平成19(2007)～木質バイオマス燃料化施設により木チップをガス化させ燃料として使用

連鎖的に資源を最大有効活用



所在地 〒841-0061 佐賀県鳥栖市轟木町 929 番地 2

連絡先 TEL : 0942-83-4069 e-mail : info@tosukan.co.jp

URL <http://www.tosukan.co.jp/>

3 R活動推進功勞団体

下川町森林組合（北海道）

代表者：代表理事組合長 山下 邦廣

設立(事業着手)：昭和17(1942)年3月

1. 活動概要



下川町は上川支庁管内の北部に位置する林業と農業を基幹産業とした人口 3,850 人の町です。土地利用総面積 6 万 4,000ha のうちの 89%にあたる 5 万 7,000ha が森林に囲まれた、まさに森林の町、木材の町として 100 年以上の歴史を持っています。

昭和 62(1987)年には加工施設から出るオガコ、パーク、端材や林産事業で発生する枝などを炭化する炉を設備し、地力増進法に基づいた土壌改良剤や融雪剤の商品化に取り組み、環境保全型の農業の流れとリンクさせていきました。

さらに、平成 11(1999)年にはトドマツ精油を抽出しアロマテラピー商品等の開発に取り組み、林地残材だったトドマツの枝や葉も利用できるようになりました。

また、従来、集成材工場の暖房と木材乾燥機は化石燃料により運転しておりましたが、平成 19(2007)年度に林業構造改革事業により木質資源利用ボイラーとチップパー機を導入し、集成材工場から出る端材やオガコから蒸気を発生させ、乾燥機・暖房機の熱源に利用するようになり、二酸化炭素の発生を抑制し、化石燃料を使用しないことから経費削減を実現しました。



「木質資源利用ボイラー」

2. ゼロエミッションシステムへの取り組みの経緯

下川町では昭和 56(1981)年 10 月に湿雪が降り、民有林のカラマツ 496ha が罹災となり、この被害木の処理をすることが緊急課題となりました。

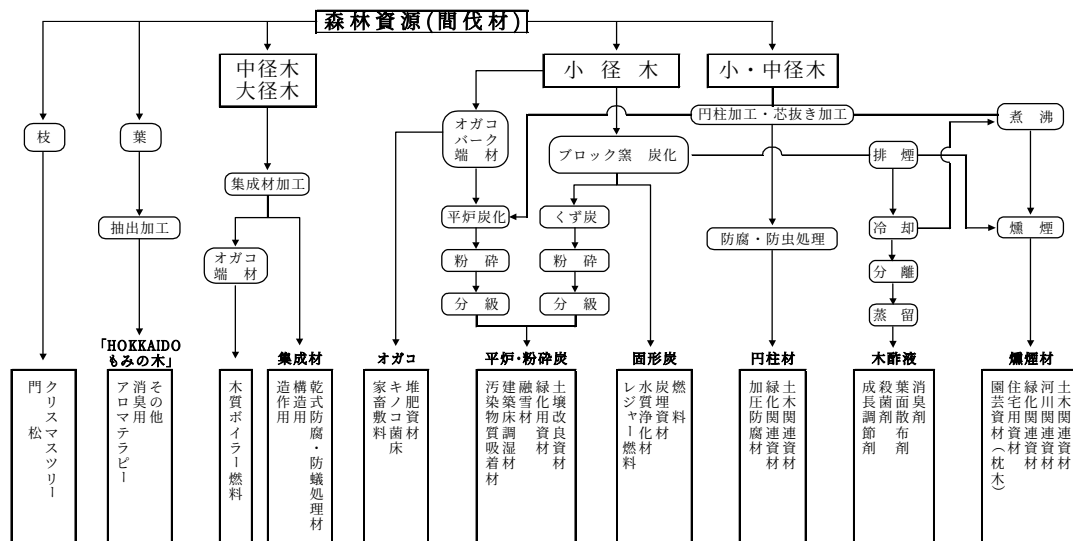
そこで地域には製材工場もあり、他とは競合しない、木炭の生産を開始することにしました。その後、木炭事業の拡大と生産コストを引き下げるためには、木酢液や煙等の副産物の利用を図ることが必要であり、昭和 61(1986)年度に山村林構により小径木加工施設を導入し、小径木を円柱材に加工し、木炭生産時に採取する木酢液で煮沸し、排煙で燻煙処理した商品(燻煙材)を開発し、国立公園の木道等に採用されました。



「燻煙枕木」

現在ではガーデニング用の「燻煙枕木」の生産販売を始めました。

下川町森林組合における木材利用 **ゼロエミッションシステム**



3. 環境への配慮として

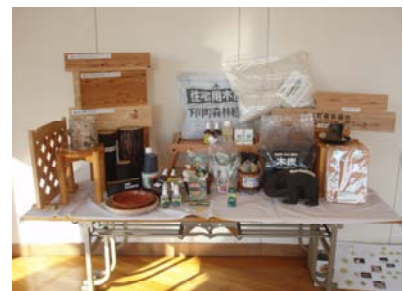
平成 15 (2003) 年 8 月に北海道で最初の「FSC 森林認証」の認定を受けました。この FSC 森林認証を受けることで、「環境と社会に配慮した森林管理」を証明でき、なお、地域の森林の豊かさを高めることを日々、目指しています。

また、同年 9 月には当組合の加工工場や町内の事業体 4 社 (現在は 6 社) が「COC 認証」を取得し、森林認証林から出材されたものから製品を生産し消費者へ販売しています。

これらの認証を取得したことで、環境に配慮した森づくりを行うことができるようになりました。

4. おわりに

当組合では上記の森林バイオマス利用への取り組みにより、森林で生産されるあらゆる資源を廃棄することなく利用する、ゼロエミッションシステムを確立することができました。そのことにより平成 20 (2008) 年 10 月に「北海道ゼロ・エミ大賞」を受賞し、平成 21 (2009) 年 10 月に北海道の推薦を受け「循環型社会形成推進功労者 (3R 活動優良企業)」表彰を環境大臣から受けました。



「各種組合製品」

所在地 〒098-1204 北海道上川郡下川町南町 133 番地

連絡先 TEL : 01655-4-2159 e-mail : shinrin@shimokawa.ne.jp

URL <http://www.shimokawa.ne.jp/shinrin>

NPO法人 あきた菜の花ネットワーク（秋田県）

代表者：石田 哲治

設立(事業着手)：平成15(2003)年11月

活動概要

私たち「NPO法人あきた菜の花ネットワーク」は、平成17(2005)年11月に任意団体「秋田菜の花ネットワーク」として立ち上がり、平成20(2008)年3月にNPO法人格を取得しました。

「菜の花から秋田の農村・農業を元気にしよう」を合言葉に、菜の花由来のバイオマス資源の利活用に関連する取り組みの普及・実施を秋田県全域で行っています。廃食油からBDF燃料の製造・利用も行い、循環型社会形成にむけ日々活動しています。

受賞のきっかけとなった活動の内容を紹介します。

① 菜の花フォーラムの開催(平成18年～平成20年)



平成18年菜の花フォーラムの様子

平成18年:秋田県内でも、先進事例である小坂町にて、第1回「菜の花フォーラム」を行いました。

このフォーラムにおいて、①名古屋大学の淡路和則氏から、菜の花由来のバイオマス資源を地域内で余すことなく活用することによる経済的な可能性、②小坂町役場の近藤肇氏から、小坂町における菜の花の取組・町からの支援について、それぞれ講演していただきました。

これを契機に、秋田県小坂町の菜の花作付面積は10haから28haに拡大したのです。



平成19年菜の花フォーラムの様子

平成19年:秋田県・秋田県立大学・秋田菜の花ネットワーク主催で、第2回「菜の花フォーラム」を行いました。

このフォーラムでは、菜の花の経済性、小坂町の現状、秋田県内における菜の花の栽培方法、廃食油回収の現状と課題、バイオディーゼル燃料の現状や精製・利用方法といったバラエティに富んだ講演をしていただきました。

これを契機に、秋田県内の菜の花作付面積は163haから212haに拡大したのです。



平成20年菜の花フォーラムの様子

平成20年：秋田県、秋田県立大学、NPO 法人あきた菜の花ネットワーク主催で、第3回目「菜の花フォーラム」を開催しました。

滋賀県立大学の山根浩二氏から、バイオディーゼル燃料の現状と課題といった技術的な内容で基調講演をしていただきました。

また、秋田県立大学の小林由喜也氏から同大学で取り組んでいる菜の花試験栽培の講演をしていただき、秋田県内の取り組みがどこまで進んだのかという共通認識を持つ場として機能しました。

② 秋田港菜の花フェスティバルの開催（平成20、21年）

秋田県内で菜の花が見頃となる5月の大型連休に、1年目は7.5ha、2年目は10haの菜の花畑を舞台とし、秋田県・秋田県立大学・NPO 法人あきた菜の花ネットワークを中心に「秋田湾菜の花フェスティバル」を開催しました。どちらの年も1万人を超える来場者で会場がにぎわいました。

また、2年目は地元地域の経済を担っている若手で構成された「港商友会」や、秋田県立大学内で結成された「菜の花フェスティバル学生実行委員会」も実行委員会に加わり、地元の若い力と共にイベントを企画しました。

この取り組みを広げるための県民への啓発の場として、また私たちネットワークの理念を若い地域の世代に継承する場として、このイベントは成功したと思います。



平成20年菜の花フェスティバルの様子



平成21年菜の花フェスティバルの様子

これらの取り組みが評価され、平成19(2007)年9月には**秋田県知事表彰**を受賞しました。

所在地 〒010-0802 秋田県秋田市外旭川水口155-1 秋田運送(株)内

連絡先 TEL：018-824-1081

URL <http://akita-nanohana.com/>

南砺市連合婦人会（富山県）

代表者：会長 大塚 千代

設立：平成17(2005)年4月1日（活動は昭和34〔1959〕年から）

活動概要

南砺市連合婦人会は、平成17(2005)年4月の市町村合併に伴い、旧市町村の8連合婦人会が統合し設立された団体です。

1 城端支部においては、昭和34(1959)年頃から、県内でもいち早く資源の集団回収を始めており、南砺市連合婦人会の成立後も市内全域で活動を継続・拡大しています。

集団回収では、新聞紙やアルミ缶、空きビン等だけでなく、天ぷら油やエコキャップ（ペットボトルのキャップ）の回収も行っており、平成20(2008)年度の回数及び回収実績は、連合婦人会全体で延べ294回、約825tに達しています。

南砺市連合婦人会 地区別・回収資源別収集量（平成20年度）

地区名	団体数	回収回数	新聞(kg)	雑誌(kg)	段ボール(kg)	紙パック(kg)	アルミ缶(kg)	布(kg)	合計重量(kg)	天ぷら油(L)
城端地区	5	54	73,291	57,269	8,145	1,067	3,044	2,135	144,951	452
平地区	4	11	8,951	6,440	4,911	125	737	0	21,164	0
利賀地区	1	10	9,649	12,230	2,020	140	49	0	24,088	678
井波地区	23	123	96,457	52,151	18,126	1,105	2,846	818	171,503	187
井口地区	1	5	19,130	10,885	2,240	183	980	750	34,168	159
福野地区	18	157	106,602	60,107	16,527	1,644	6,174	3,585	194,639	68
福光地区	13	45	131,275	71,135	25,985	307	4,817	750	234,269	359
合計			445,355	270,217	77,954	4,571	18,647	8,038	824,782	1,903

2 平成19(2007)年度からは、連合婦人会内に生活委員会を新設し、環境をテーマに活動に取り組んでおり、平成20年4月から始まった全国初の県内全域でのレジ袋の無料配布廃止の実現に当たっては、独自の啓発チラシの作成・配布、署名活動を行うなど、積極的に活動に参画しています。



南砺市連合婦人会のエコ活動取組み

(平成 21 年 12 月 生活委員会調べ)

リサイクル活動

回収品目	年間取組み回数(地区)			
	1回	2回	3回	4回以上
新聞紙	—	13	11	1
チラシ	—	13	11	1
菓子箱・包装紙	—	7	4	2
牛乳パック	—	10	5	2
ダンボール	—	12	11	1
アルミ缶	—	7	10	6
ペットボトル	—	4	4	4
衣類	5	3	3	—
ビール瓶	—	3	2	1
一升瓶	—	3	2	1
食用廃油の回収		13地区		
エコキャップの回収		30地区		



リユース活動

遊休品バザー	14地区
フリーマーケット	2地区
廃油の石鹸作り	1地区
廃油のローソク作り	2地区



リデュース活動

マイバック運動の推進	30地区
マイ箸運動の啓発	6地区
紙コップ・トレイの減量啓発	2地区

CO₂ 削減活動

活動項目	啓発運動取組み	実践への取組み
エコドライブしよう	30地区	3地区
節水に努めよう	22地区	2地区
節電を心がけよう	18地区	2地区

所在地 〒932-0231 富山県南砺市山見 1400 番地

連絡先 TEL : 0763-22-2569 (会長自宅)

URL 無し

滑川市立早月中学校PTA（富山県）

代表者：会長 宮崎 繁幸

設立：昭和24(1949)年4月（活動開始：昭和51(1976)年）

活動概要

- 1 昭和51(1976)年から、他の小中学校に先駆けて資源集団回収を始め、現在も年3回以上実施しています。

集団回収はPTA役員が中心となり、生徒と保護者が校下内(学区内)の各戸を訪問して行います。生徒自身が回収に参加することで、日常生活でのリサイクル意識の向上に努めています。

また、地域の小学校や他の団体等とも連携し、継ぎ目無く集団回収を行うことで、地域全体で「分別・再資源化は当たり前」という意識を醸成しています。

○平成20(2008)年度集団回収実績：約130トン



- 2 昭和61(1986)年から滑川漁港周辺の海岸清掃を実施し、昭和62(1987)年からは、毎年7月20日を中心に「ふるさとクリーン作戦」として清掃活動を校下(学区)全域に拡大し、地域の環境美化に努めています。

また、清掃活動で回収したごみの中から缶・ビンを選別し、リサイクル化を実施してきました。

平成21(2009)年度は、県や市が主催する「とやま ふる里 海岸クリーンアップキャンペーン」に参加し、滑川市での活動日(平成21年7月5日)には、その中心となって市内の海岸の清掃活動を実施しました。



所在地 〒936-0882 富山県滑川市中野島 1260 番地

連絡先 TEL : 076-475-0342 e-mail : school@hayatsuki-j.nk.tym.ed.jp

URL <http://www.hayatsuki-j.nk.tym.ed.jp/>

かほく市子ども会連絡協議会（石川県）

代表者：会長 浜本 博範

設立(事業着手)：昭和52(1977)年4月

活動概要

30有余年の資源ごみ集団回収を通じ、廃棄物の排出抑制等に大きく寄与

かほく市合併(平成16[2004]年3月、高松町・七塚町・宇ノ気町3町合併)の以前から各単位子ども会の廃品回収運動として行われてから30有余年が過ぎ、現在でも年2回実施され、子ども会員を中心に回収が続けられています。現在では「エコ」、「リサイクル」が当たり前の時代ですが、化石燃料が有限であることやリサイクルの大切さを資源ごみ集団回収体験を通じて協調性や責任感を養い、環境と資源を大切にすることを育てること、廃棄物の排出抑制を目的に「ダンボール、新聞紙、古紙、古びん」などの回収運動を実践しています。

現在ではドーナツ化現象でまちなかの家屋・世帯数が減ったため、子ども会会員も少なくなり、地域町内会の協力無くして継続が困難な時代となってきましたが、その分、町内会の人々とのコミュニケーションをとる大切な機会となっています。

連絡協議会の歩み

- ・昭和52(1977)年4月 連絡協議会が廃品回収活動を開始
- ・平成8(1996)年11月 石川県知事表彰(生活環境改善事業功労者)

活動の様子

回収活動の一部を紹介すると次のとおりです。

以前は、子ども会会長から回収日時を回覧通知して、各家庭の前に回収する資源ごみを出してもらい、当日子どもたちが保護者の運転するトラックで回収して資源回収業者のところへ搬入するものでありましたが、現在は町内会の人たちの協力を得て継続しています。



資源ごみ集団回収風景 1



資源ごみ集団回収風景 2



資源ごみ集団回収風景 3

所在地 〒929-1193 石川県かほく市浜北ハ6番地1 (かほく市教育委員会内)

連絡先 TEL : 076-283-7137 (かほく市子ども会連絡協議会)

URL 無し

美濃加茂市生活学校（岐阜県）

代表者：大島 愛子

設立：昭和44(1969)年4月

活動概要

長期にわたって定期的な資源回収を実施し、リサイクル活動に貢献

活動内容

- ・リサイクルステーションの開設（毎月第1日曜日）（1月は第2日曜日）
- ・県内の生活学校との研修交流
- ・消費生活・環境問題に関する講演会参加
- ・環境・健康・福祉に関する勉強会（消費生活講座）などの助成

リサイクルに関心のある女性が集まり、昭和44(1969)年に美濃加茂市生活学校を設立しました。

当初は清掃活動からはじめましたが、リサイクル率の高いアルミ缶に注目し、昭和54(1979)年から地域の空き缶回収を開始しました。昭和60(1985)年に行政と連携し、アルミ缶回収（買い上げ方式）を実施し、平成12(2000)年に回収品目を追加して「リサイクルステーション」を開設しました。その後、回収品目を増やすなど、美濃加茂市における資源回収の先駆的存在として活動しています。

啓発活動としては、毎年美濃加茂市環境フェア等に出展し、資源回収の実績報告やリサイクル品の展示を行っています。また、回収した廃食油で石けんを作って配布したり、市内小学校で石けんづくり講座を実施しています。平成20(2008)年9月に美濃加茂市内の店舗で開始したレジ袋有料化においては、市民の意識調査や街頭啓発に加わり、有料化実施後にはマイバッグを配布するなどして3Rの推進に貢献しました。



マイバッグキャンペーンに参加



廃油で石けんづくり



子供たちと廃油で石けんづくり



環境フェア出展



リサイクルステーション



リサイクルステーション



リサイクルステーション

所在地 〒505-8606 岐阜県美濃加茂市太田町 3431-1 (美濃加茂市環境課)

連絡先 TEL : 0574-25-2111 (内線 307) / 美濃加茂市環境課

URL <http://www.city.minokamo.gifu.jp> (美濃加茂市)

静岡県牛乳協会（静岡県）

代表者：高橋 芳康

設立：昭和26(1951)年2月

活動概要

学校給食用牛乳の紙パックのリサイクル推進に向けたシステムづくり及び資源再利用の推進。

静岡県牛乳協会では、ごみの減量化と再資源化の重要性に鑑み、平成16(2004)年度から、独立行政法人農畜産業振興機構の支援をいただき、静岡県畜産振興室、県教育委員会、(財)県学校給食会、県学校給食栄養士会、県PTA連絡協議会等の学校給食関係団体と協力し、学校給食用牛乳紙パックのリサイクル推進活動を行った。

活動内容としては、学校教職員向け研修会の開催(写真1-2)、洗浄風景(写真3-4)、リサイクル資材(紙パック洗浄・乾燥用水切りかご)の配布(写真5-6)を行うほか、リサイクル協力校へ還元物資として、学校給食用牛乳紙パックを再生して製造したティッシュペーパーの配布を実施した(写真7-8)。

この結果、平成17(2005)年度に39%であった静岡県内小中学校の学校給食用牛乳紙パックのリサイクル実施率が、事業実施後の平成18年度には83%、平成20年度には92%(学校給食を行う県内小中学校等859校のうち791校で実施。全国平均は48.5%〔平成19年度全国牛乳容器環境協議会調べ〕)となり、本県の学校給食用牛乳紙パックのリサイクル活動を格段に推進することができた。

(活動状況)

平成16～17年度	・児童生徒が実施可能なリサイクル方法の検討と県内へ普及広報
平成18年度	・県内小中学校教職員向け研修会の開催 ・「学校給食用牛乳紙パックの処理に関するQ&A」の配布
平成18年度～現在	・リサイクル用資材(学校給食用牛乳紙パックの洗浄・乾燥用の水切りかご)の配布 ・リサイクル協力校へのリサイクル還元物資(学校給食用牛乳紙パックから再生したティッシュペーパー)の配布

(静岡県内小・中学校における年度別学校給食用紙パックのリサイクル実施状況)

年度	17	18	19	20
リサイクル 実施率	39(%)	83(%)	91(%)	92(%)

(学校教職員向け研修会の開催状況)



1.研修会場



2.研修会場



3.紙パック洗浄



4.紙パック洗浄

(紙パック洗浄・乾燥用水切りかご)



5.水切りかごセット



6.洗浄後の紙パック

(還元物資の贈呈式及び配布ティッシュペーパー)



7.ティッシュペーパー贈呈式



8.配布ティッシュペーパー

所在地 〒422-8067 静岡県静岡市駿河区南町 13-8

連絡先 TEL : 054-285-8365 e-mail : s-titi138@cocoa.plala.or.jp

URL 無し

所 柏原エイフボランティアクラブ（大阪府）

代表者：会長 岡 昌代

設 立：平成7(1995)年4月

活動概要

環境美化運動、3Rの推進運動や各種キャンペーンを展開し
ごみ減量と環境美化、環境保全に大きく貢献

1. 例年5月30日には、「ごみ0キャンペーン」と題して市内の主要な駅周辺で「ごみ拾い」を実践し、市民に「ばい捨て禁止」を訴えた。
2. 6月の第1日曜日には大阪府柏原市と共催して「環境フェア」を開催し、3Rの推進と実践を訴えている。
3. 9月には、「環境美化とリサイクル社会推進月間」と位置づけ、主要な駅前で3Rの推進と環境の美化を「チラシと啓発物品」をもって市民に配布した。
4. 1月には「マイバックキャンペーン」と題して、市内の主要な量販店付近でマイバックと啓発用のチラシを買い物客に配布し買い物の際にはマイバックを持参し、レジ袋を貰わないよう呼びかけた。
5. 2月には初めて「こども服」のリサイクルを打ち出し、不用となった5歳児までのこども服を柏原市の広報誌を通じて収集し、約1000着の服を5月17日に無償で欲しい方に配布し、再利用(リユース)の促進とごみ減量を図り、大変好評であった。
6. その他各地のリサイクル館やごみ焼却施設を視察見学し、ごみの分別やリサイクルの重要性を市民に呼びかけている。

こども服の配布状況写真



所在地 〒582-0016 大阪府柏原市安堂町 1 番 55 号

連絡先 TEL : 072-972-1534 e-mail : kankyo@city.kashiwara.osaka.jp

URL 無し

エコフィード循環事業協同組合(兵庫県)

代表者：理事長 金澤 孝

設立：平成19(2007)年6月5日

活動概要

食品バイオマスから、エコフィード製造と高付加価値食品の生産流通システムを構築

本組合は、組合員が取り扱うバイオマス分野での持続可能な地域循環システムを創造すること、即ち、連携の力でエコフィード(リサイクル飼料)製造の共同施設を設置し、組合生産エコフィードの利用とそれによる「霜降り豚肉」などの付加価値食品の市場開拓を実施することにより、リサイクルネットワークの出口に位置する消費者の理解と応援をいただける食品ループ事業の創造を目的に設立されました。

活動の状況

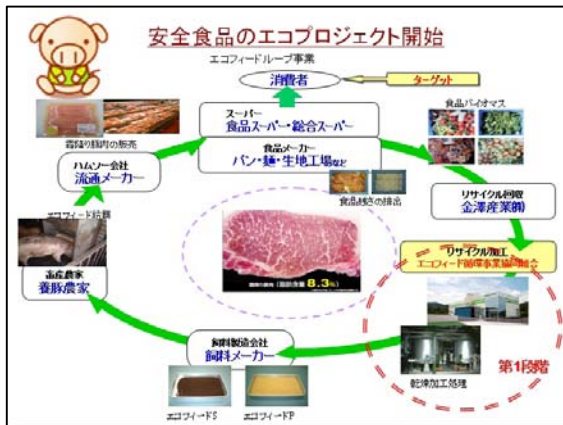
- H11 金澤産業(株)とマックスバリュ西日本(株)による食品残さの飼料変換調査の開始
- H13 金澤産業(株)を幹事会社とした食品残さ飼料化グループと兵庫県農林水産技術総合センター家畜部との飼料化技術のための共同研究の開始
- H14 兵庫県循環型社会先導プロジェクトのソフト支援により、金澤産業(株)を幹事会社にスーパー、食品工場、大学、県立畜産技術センター、県中央会などによる産学官の「グリーンフードコンソーシアム」がスタートし、食品残さを利活用した家畜用飼料の開発研究が本格化
- H15 「グリーンフードコンソーシアム」へ民間の養豚農家も加わり、産学官農連携の事業化研究会に様変わりし、マックスバリュ5店舗での試験販売を行い、そのアンケート(有効数287名)も実施した結果、肉質評価が高い(5段階評価平均3.90)「霜降り豚肉」生産技術の開発につながる
- H17 前述までの開発結果を受け、新連携補助事業(フォーメーション)「グリーンフードコンソーシアム」による、食品残さの飼料事業の事業化調査が開始し、プラントメーカーによる多品種残渣の乾燥試験が開始
- H18 ループリサイクルのマネージメントを思考考察し、システム化開発するための(株)バイオマス・グリーンを設立し、食品リサイクルのトレーサビリティシステム開発が本格実施
- H19 金澤産業(株)、(株)バイオマス・グリーンを中心に養豚農家を加え、エコフィードループによる地域循環型社会構築を目的にエコフィード循環事業協同組合を設立
- H20 農水省農業・食品産業競争力強化支援事業の支援の下、エコフィード施設の整備を行い、エコフィード施設の共用を開始
- H21 兵庫県霜降り豚肉生産協議会が中心となり、エコフィード飼育の「霜降り豚肉」ひょうご雪姫ポーク(公募名称)の販売を開始

業績

- ・エコフィードおよびその原料についての技術的な製造方法と利用方法を確立した。
- ・エコフィード利活用において、高付加価値食肉「霜降り豚」の生産技術の確立と生産での安心安全の技術的の確立を行った。
- ・原料利用においては、スーパーなどの排出事業所での労力ゼロ化のための課題解決に向けた優位分類法を確立し、マニュアル化を行った。
- ・雑多食品の同時乾燥における水分10%以下の均一乾燥と乾燥時間の短縮技術を開発した。

エコフィード循環事業協同組合施設の完成





安全食品のエコプロジェクト



「楽々簡単分別（ふんべつ）システム」排出事業者用

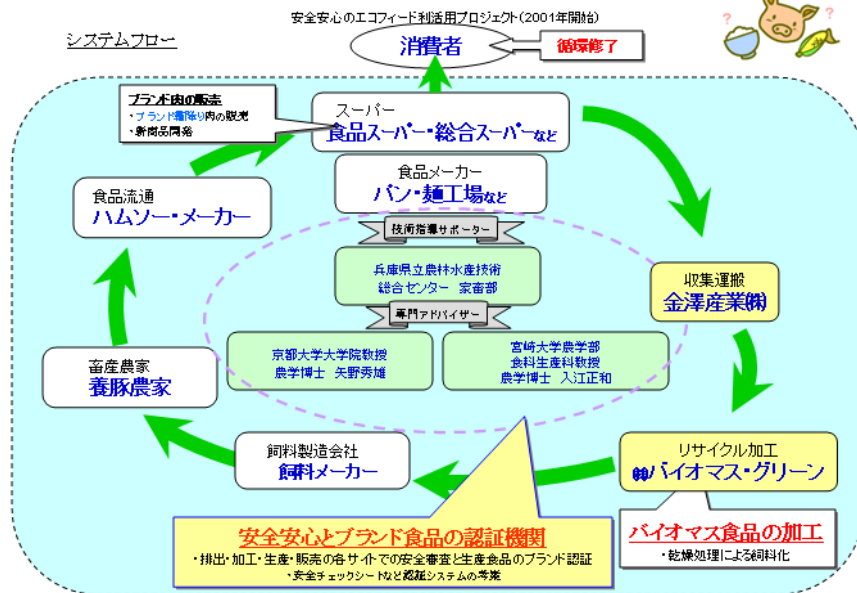


4つの安全安心とひょうご雪姫ポーク



エコフィード トレーサビリティシステム

食品バイオマス飼料化研究会「グリーンフードコンソーシアム」活動



グリーンフードコンソーシアム研究会

所在地 〒675-2113 兵庫県加西市網引町 2001-54 加西南産業団地 3-C 号地

連絡先 TEL : 0790-49-9880 e-mail : info@eco-feed.org

URL <http://www.eco-feed.org/index.html>

代表者：学校長 越智 善行

設立：昭和23(1948)年4月

活動概要

本校では、使われなくなった車いすを福祉施設等から譲り受け、それを修理・再生して海外や地域の福祉施設などに寄贈する「空飛ぶ車椅子」活動を行っている。車いすの修理は、常に難しい作業が伴っているが、特に、本校の活動は工業高校の特色を生かし、きめ細やかな修理・再生事業を行っているところに特徴がある。

作業内容は極めて複雑であり、大きく分けても、車いすの搬入から始まり、車いすの分解、車体や部品のサビ取り、必要に応じて塗装、座席シートやひじ置き洗净・補修・交換、前後輪のベアリングの調整・交換、タイヤの交換、パンク・虫ゴムの点検・補修・交換、キャスターの点検、ブレーキの補修交換、組み立て再生完了後の最終チェック・調整等となっている。また、過去に寄贈した車いすの定期点検や使用状況の調査なども行っている。



車いす修理の様子

特に車体や部品のサビ取り作業においては、何日もかけて車いすを磨く必要があり、極めて根気のいる作業である。本校ではさび取りの作業をワイヤーブラシやヤスリを使わずに、使用済みの歯ブラシと研磨剤を用いて地道に磨き続けるところに特徴がある。ワイヤーブラシやヤスリでは簡単にサビを取ることができるが、必要以上に傷つけることになり、すぐにサビや破損につながってしまう。使用済みの歯ブラシをリユースして使用するの、再生後も長く車いすを使ってもらえるようにと配慮された方法である。時間と労力は数倍かかるが、その分、心のもった作業ができると考えている。

さらにどの状況においても、1本のねじでも無駄にせず、少しでも使用できる部品は分解して部品取りを行い、常時備蓄し、リユースしようとする精神が随所に宿っており、本校の車いす修理・再生技術は専門業者顔負けであると自負している。



回収された車いす



分別されて再利用される車いすの部品

【これまでの主な実績（海外）】

- 2000 年 韓国、台湾へ40台寄贈
- 2001 年 韓国、インドネシアへ40台寄贈
- 2002 年 韓国、スリランカ、モンゴルへ56台寄贈
- 2003 年 韓国、モンゴル、タイ、インドネシア、マレーシアへ41台寄贈
- 2004 年 韓国、スリランカ、マレーシア、南アフリカへ95台寄贈
- 2005 年 韓国、スリランカ、台湾へ56台寄贈
- 2006 年 韓国、スリランカ、ベトナムへ110台寄贈
- 2007 年 韓国、スリランカへ93台寄贈
- 2008 年 韓国、スリランカ、インドネシア、ベトナムへ102台寄贈
- 2009 年 韓国、タイ、モンゴルへ98台寄贈

所在地 〒792-0004 愛媛県新居浜市北新町8番1号

連絡先 TEL : 0897-37-2029 (代表)

URL <http://www.ehime-net.ed.jp/niiko/index.shtml>

三潞郡大木町婦人会（福岡県）

代表者：会長 廣石 福子

設立：昭和30(1955)年1月

活動概要

1. ダンボールコンポストの推進(平成15(2003)年～)

生活様式の変化とともに燃えるゴミとして出される生ゴミが問題となるなか、平成6(1994)年の当会の総会で紹介されたEMボカシ(EM菌を米ヌカなどに入れて大量に増やした粉)での生ゴミ堆肥化は全町的な広がりを見せた。しかし、土地がないなどの問題もあり実践する人が少なくなっていた頃、このダンボールコンポストと出会った。

2. マイバッグ持参運動(平成元(1989)年～)

使い捨て時代の反映でゴミが増えるなか、ゴミを減らす運動の身近な取組みとして、スーパーのレジ袋を小さくたたんでいつもバッグに入れておくことを進めた。

活動のようす

1. ダンボールコンポストの取り組み

●ダンボールコンポスト講習会

平成15(2003)年4月、当会の総会でエコネットふくおかの平由以子さんに講演いただく。もみがらくん炭と廃おがくずを入れたダンボールコンポストの中に生ゴミを入れて混ぜるだけ。ゴミが増えない不思議な箱にみんなが感動！

●小学校の総合学習に

平成16(2004)年、小学校5年生の総合学習の時間で講習を行った。保護者の方にも参加してもらった。また、他の小学校では毎日、児童が家から生ゴミを持ってきて、毎日観察。各箱に名前を付けてペットを飼う感覚で楽しんでいた。



●おおき循環センター「くるるん」

町内の生ごみ、し尿を収集、メタン発酵処理し、電気と熱エネルギーを自給しながら液体肥料をつくる、資源循環型のまちづくりを目指す大木町の基幹施設で、平成18(2006)年にオープンした。農家が液体肥料を使った減農薬、減化学肥料ブランド米「環のめぐみ」を栽培し、再び町内の家庭に返すことで資源の循環サイクルができている。

●環境団体「あーすくらぶ」との連携

「くるるん」ができて、町内ではダンボールコンポスト利用者が少なくなったが、他市町から講習会開催の依頼を多数いただく。町の環境団体「あーすくらぶ」が講習会を行い、当会でダンボールコンポストの資材づくりを担当し、一緒になってダンボールコンポストの推進を図っている。



2. マイバッグ持参運動

●統一した買い物袋

レジ袋を再利用したり、家にある袋を持っのマイバッグ持参運動はなかなか進まないの
で、町からエコを意識させるための大きめの袋を買ってもらって推進した。

●廃傘を利用したマイバッグづくり

平成 11(1999)年、廃傘の布で買い物袋を作りマイバッグ
持参運動を進めている横山さんに講演とバッグづくりの実
習をお願いした。祭りなどのイベントで自分たちが作ったバッ
グを無料配布してPRを行った。また、バッグづくりを希望す
る人たちのところには傘布を準備して指導に行った。町の中
学校の選択授業でもバッグづくりを行った。



●スーパー前でチラシ配布

平成 12(2000)年 5 月から平成 13(2001)年 3 月まで、毎月 2 か所のスーパー前で 4、5 人
の会員でチラシを配布しながらマイバッグ持参を呼びかけた。同時に、スーパーのレジ担当の
方に「マイバッグお持ちですか」の声かけをしてもらうようにお願いした。

●アンケートの実施

平成 13(2001)年 5 月に、買い物客を対象にマイバッグ持参に関するアンケートを実施し
た。結果、持参しない理由として、仕事帰りでつい忘れてしまうという人が一番多かった。

●直売所でマイバッグ販売

町の直売所で当会が作った廃傘布のバッグ(小型 120
円、大型 200 円)を販売。平成 18(2006)年からは直売所
のレジ袋が有料になった。



●大木町マイバッグ持参運動共同宣言集会

平成 21(2009)年 11 月、町民、事業者、行政が一体
となって、協力事業所 39、応援団体 29 が参加し、マ
イバッグ持参の推進が始まった。もちろん当会も 7
回の街頭キャンペーンや各種イベントでのPRに参加し、スーパー前にはのぼり旗
が立てられた。11 月をマイバッグ持参の強化月間とし、50%のマイバッグ持参率を
目標に掲げたが、残念ながら持参率は 30.8%であった。これにより協力体制ができた
ので、持参率 100%をめざして活動の輪を広げていきたい。

所在地 〒830-0416 福岡県三潞郡大木町八町牟田 255-1
大木町就業改善センター内

連絡先 TEL : 0944-32-1047

URL 無し

中島校区まちづくり協議会（福岡県）

代表者：会長 佐藤 良水

設立：平成13(2001)年1月（事業着手：平成14〔2002〕年）

活動概要

中島校区は、北九州市小倉北区のほぼ中央に位置し、国道3号線と国道10号線が交差しており交通の要所として栄えてきた地域です。古くからの住宅と新しいマンションが混在している住宅地であり、校区の世帯数は約3,200世帯、人口は約5,800人です。また65歳以上の人口比率は28.0%であり、典型的な少子高齢化の地域です。このような地域において、まちづくり協議会の行っている3R活動の概要は次のようなものです。

中島市民センターを拠点として、古紙(平成14〔2002〕年から)、空き缶(平成15〔2003〕年から)、食用廃油(平成18〔2006〕年から)を主として、その他にもフライパンなどの小物金属、ペットボトルキャップ、牛乳パック、食品トレイなどの回収を行っています。



(ペレットダンベル)



(ダンベル体操)

回収した古紙と空き缶は、業者に売却することにより財源の乏しいまちづくり協議会の貴重な自主財源となっています。平成21(2009)年度の回収量は、古紙が約99トン、空き缶が約2,600キロになります。この財源を原資にして、校区の健康づくり事業の一環として毎年実施している乳がん検診の受診料の助成など、できるだけ地域社会に還元できるような事業を展開しています。

ペットボトルキャップは、株式会社マイカルを通してリサイクル会社に売却され、その代金は貧困に苦しむ世界の子どもたちを支援する団体に寄付されます。最終的には、ポリオワクチンや栄養給食としてアフリカで飢餓に苦しむ子どもたちのために、役立てられています。

平成18(2006)年に北九州市は、環境首都構想を発表して行政、地域はそれまで以上に環境に対する意識が高揚しました。そして、まちづくり協議会も北九州市と連携して中島市民センターに食用廃油回収ボックスを設置して、食用廃油の回収を開始しました。回収された食用廃油は、バイオマス燃料として北九州市営バスに利用されています。当初バイオマス燃料は、トウモロコシやサトウキビなどの穀物が注目されていましたが、食料問題や環境問題から今後は食用廃油に代表される廃棄物系バイオマスが主流になると思われます。



(北九州エコタウン見学会)



(小物金属と食用廃油の回収ボックス)

以上のような3R活動を今後もより充実させるためには、何をさておいても地域の人たちの環境に対する意識の向上が必要不可欠であります。そのために、まちづくり協議会では市民センターの広報誌やホームページを利用した回収の呼びかけはもちろんですが、地域の人に少しでも環境問題の本質や3R運動の最前線を体験してもらう必要があると考えています。具体的には、毎年1回北九州エコタウン(リサイクル関連企業や環境関連技術の研究施設の集積地)の見学会を企画しています。

また、北九州エコタウンのリサイクル会社から、回収されたペットボトルからできるペレットを提供してもらい、ペレット300gが入った手製のダンベルを作りました。これを市民センター主催のメタボ改善教室やふれあい昼食交流会などで使ってもらい、地域の人たちに3R運動により関心を持ってもらうよう努力をしています。

平成20(2008)年に北九州市は、政府より環境モデル都市の認定を受けました。これは、北九州市が公害克服、循環型社会づくりなど常に日本の直面する環境問題に真正面から取り組み成果を上げてきたこと、そしてその成果を国内のみならずアジア諸国に環境国際協力という形で環境問題の解決に貢献してきたことが評価された結果だと思います。

今後、私たちまちづくり協議会は北九州市と連携して、3R運動だけに限らず、家庭での省エネの工夫、カーシェアリングやパーク&ライドの奨励、自転車の利用促進など低炭素社会づくりを、ささやかではありますが、地域の人たち一緒に身近なところから取り組んでいくつもりです。

所在地 〒802-0075 福岡県北九州市小倉北区昭和 16-2 中島市民センター内

連絡先 TEL : 093-931-8370 e-mail : ns-sf@ktqc03.net

URL <http://www.ktqc01.net/kita/nssf>

3 R活動推進功勞個人

占部 敏治（福島県）

所 属：全国清掃事業連合会理事、福島県環境整備協同組合連合会理事、
福島市クリーンサービス協同組合代表理事

活動概要

全国清掃事業連合会（全清連）の3R推進担当の理事として、全清連加盟の445余会員企業に対し、循環型社会づくり・3R推進に関する普及啓発活動として、各種リサイクル法に対応した事業展開などの必要性を全清連の各種研修会を通じて全国の会員へ訴えけるとともに、各会員がそれぞれの地域で、行政・住民に連動協働して循環型社会づくりに参画するよう指導を行っている。

また、出身地区においても、東北6県の全清連東北地区の会員、福島県環境整備協同組合連合会の会員、地元である福島市クリーンサービス協同組合会員の従業員などへ、講演会や研修会などのあらゆる機会を捉えて、多くの人々に、限りある地球の資源を有効に繰り返し使う社会づくりの重要性を訴え、協力を呼びかけている。

活動の様子

各協同組合会員代表者への啓発活動

・東北地方・福島県の3Rの現状・今後の取り組みなどを講演

（福島県環境整備協同組合連合会役員会での説明状況）



(福島県環境整備協同組合連合会(会員125)全体会での講演会状況)



組合会員の従業員への啓発活動

・3R活動の意味・取り組みなど、ごみゼロ社会の実現や循環型社会作りの必要性などを講演

(福島市クリーンサービス協同組合会員の従業員(出席108名)への研修会状況)



所在地 〒960-8053 福島県福島市三河南町 1-20 福島県環境整備協同組合連合会

連絡先 TEL : 024-525-4083

URL <http://www.zenseiren.jp/> (全国清掃事業連合会)

玉川 榮（神奈川県）

所 属：大和市リサイクル事業協同組合 代表理事

活動概要

玉川氏は大和市リサイクル事業協同組合設立の発起人に名を連ね、組合設立当初の平成5（1993）年より代表理事に就任し、以来代表理事歴が17年目となっている。

大和市を中心に資源の回収事業及び再生資源卸売業を組合の主体事業として、多年にわたり大和市の資源回収事業を受託し、行政による循環型社会形成に貢献している。

氏の組合本部である柳橋エコセンターでは市民に向けたリサイクル教室の開催や、リサイクル施設内の見学者の受け入れ、地域のイベントでの出展など環境問題における啓発活動を推進している。

また、氏は発起人として立ち上げた「神奈川県リサイクル産業団体連合会」や「県央湘南リサイクル研究会」は神奈川県内のリサイクル関連組合で組織され、情報交換や勉強会を開催し、関係者が連携することによりリサイクル業の地位の確立のために役立っている。「県央湘南リサイクル研究会」では発起人で理事であり、現在座長である。「神奈川県リサイクル産業団体連合会」では発起人で4代目会長、現在相談役に就任。大和商工会議所常議員、環境委員としても地域に密着した活動を行っている。



平成13(2001)年

神奈川より優良組合として県知事表彰



平成13年(2001)年

優良役員表彰



イベントでの古本市の売り上げは組合オリジナルの
トイレットペーパーに交換し、大和市、大和市社会
福祉協議会を経て、市内老人ホームなどに寄付



平成21(2009)年

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰

所在地 〒242-0022 大和市柳橋 5-13-9 (柳橋エコセンター内)
大和市リサイクル事業協同組合

連絡先 TEL : 046-269-9905 e-mail : info@eco-yamato.or.jp

URL <http://www.eco-yamato.or.jp/index.htm>

所 属： 社団法人岡山県産業廃棄物協会 副会長

活動概要

社団法人岡山県産業廃棄物協会の副会長として、親子環境学習エコツアーの実施等の環境教育に率先して取り組むなど、循環型社会形成に多大の貢献をしている。

- ・岡山県産業廃棄物協会の青年部会担当理事として、青年部会が開催した親子、児童などを対象とする親子環境学習エコツアーや、小学校に出向いて実施する環境学習を総括・指導するなど、児童を対象とした環境学習を率先して実施し、循環型社会形成についての啓発活動に多大な尽力を行った。
- ・平成5（1993）年の同協会支部制度発足以来、倉敷支部長として、支部活動の活性化と同協会主要事業となっているクリーン作戦（不法投棄物の撤去作業）を立案、実施するとともに、地元小学校の生徒に作業現場の見学を体験させ、実践的な環境学習を行うなど、児童への循環社会形成の意識づけに大きく貢献している。
- ・同協会のリーダーとして、会員に対し循環型社会の形成に向けた産業廃棄物業界の果たすべき役割や、最新の知見に関する認識を一層深めるため、先進企業の視察研修等を積極的に推進している。
- ・また、自らも廃プラスチック等のリサイクル事業を行うとともに、岡山建設副産物再生資源協同組合の理事長を務めるなど、循環型社会形成のための活動を幅広く展開している。

持続可能な開発のための教育（ESD）

ESD とは、社会の課題と身近な暮らしを結びつけ、新たな価値観や行動を生み出すことを目指す学習や活動のこと。「現代社会が抱える課題を知り、その原因と向き合い、解決のためにできることを考え、実際に行動する」経験を通じて、社会の一員としての認識や行動力を育む教育を目指す。

【ESD の特徴】

1. 単なる知識習得ではなく、学習者みずから価値観を見つめ直し、よりよい社会づくりに参画する力を育む。
2. 社会の課題と向き合い、問題解決型の「教育」や「地域の活動」を通じ、参加体験型の「学び」を重視。
3. 学校、企業、行政、NPO、農林漁業者など、さまざまな立場の人たち、大人も子どもも、それぞれが ESD の担い手であり、学び手である。
4. 環境、社会、経済を総合的に扱う。

（出展：NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議）

県の環境基本計画の推進へ廃棄物のプロがESD活動

親子環境学習エコツアー

岡山県産業廃棄物協会青年部会が主催する「夏休み親子エコツアー」は、手作りの「ごみ勉強会」が好評を博し、毎年応募者数が増加している。平成21(2009)年は定員の5倍の応募があり、約80名の親子が、廃棄物について学んだ。こうした取り組みは新岡山県環境基本計画「エコビジョン 2020」を掲げ、環境保全と教育に注力する岡山県において重要な役割を担っている。



所在地 〒701-1152 岡山県岡山市北区津高 628-6 (社)岡山県産業廃棄物協会

連絡先 TEL : 086-254-9383 e-mail : okasan81@alpha.ocn.ne.jp

URL <http://www7.ocn.ne.jp/~okasan81/>

所 属：株式会社NIPPO 中国支店 合材部設備課長

活動概要

アスファルト廃材、コンクリート廃材の再利用促進に関わる啓発活動

昭和60(1985)年から当社の中国支店管内の合材工場の工場長として、アスファルト混合物の製造に携わり、主要資材である碎石、砂、アスファルト等の資源の有効活用のため、道路建設現場より発生するアスファルト殻を再生使用する技術を習得。また石油資源の枯渇問題、瀬戸内海の手砂の採取制限、禁止等の諸問題が浮き彫りとなったことから、道路工事現場から発生するアスファルト殻を分別処理して再生骨材を製造し、アスファルト混合物に利用することで、新規骨材、アスファルト等の所要量の軽減とコストの削減を推進してきた。

現在は現場での取り組み経験を生かし、品質管理、コストの軽減、設備の改造等、管内工場の利用推進のための指導助言を行っているところである。

道路の保全工事から発生するアスファルト殻は平成2(1990)年度ころから再生使用機運が高まってきた。資源小国の日本は石油製品から製造される新アスファルトを軽減するために、アスファルト殻を発生する道路に戻すことで、道路を備蓄タンクとすることが可能となる。

発生する現場からのアスファルト殻を分別収集することにより、再生品の品質の確保、および再生比率の向上、不要物の減量など、3R推進に寄与することができる。

資源を有効に活用するため、「混ぜればゴミ、分ければ資源」の考え方で処理業を営む当社だけでなく、道路建設業者への資源活用の啓発活動を推進し、現在アスファルト殻の再生利用率は90%を超えるものとなってきた。

品質に関しては、道路で供用されている間にアスファルトは品質が劣化し、そのまま使用することはアスファルト混合物の品質基準を逸脱することが予測される。そのため、再生品の品質の把握が不可欠で、これを疎かにすると、再生混合物は不安定なものとなり、使用された道路の破壊等寿命の短い道路となり補修頻度が大きくなる。

良い製品を安く、安定的に供給するためには製造携わる従業員に「整理、整頓、清潔、清掃、習慣化の躰」の5Sを研修、指導することが必要となる。質の向上を図り、安定した製品を製造するため、後輩の指導にあわたくし奔走している現在である。

工場写真



アスファルト混合物製造工場の一例



再生製品製造設備の一例

所在地 〒732-0824 広島県広島市南区的場町 1-2-19 アーバス広島 3F
株式会社NIPPO 中国支店

連絡先 TEL : 082-568-6108 e-mail : mikami_hideyuki@nippo-c.jp

URL www.nippo-c.co.jp

旭 芳郎 (長崎県)

所 属 : 雲仙百年の森づくりの会 事務局長

設 立 : 雲仙の火砕流で消失した森の再生スタート(平成9〔1997〕年)

活動概要

ごみ減量化や温暖化防止などの循環型社会の重要性について啓発活動を展開

平成14(2002)年～ 長崎県地球温暖化防止活動推進員

平成16(2004)年～ 環境省環境カウンセラー・長崎県地球温暖化対策協議会委員

長崎県環境アドバイザー・NPO エコ未来長崎理事長

NPO 地球環境市民理事・南島原市地球温暖化対策協議会会長

<主な活動>

- ・ 環境問題や温暖化問題の講演(無料出前講座)を開催。これまで5年間で61回、対象人数5860人。対象者、小学生・高校生・大学生・婦人会・老人会・企業・ライオンズクラブ・ロータリークラブ・行政・教職員・一般・ほか
- ・ 森づくりのための植樹会。これまで13年間で25回開催。参加人数13年間で約7万8000人。対象者、高校生・大学生・修学旅行・イベント記念・外国人・一般
- ※苗木をするために、森で種ひろいを7回開催し、参加者360人。
- ※育樹のための、下草刈り・枝うちをこれまでに9回開催。参加者約1600人。
- ・ 環境に関する啓発展示イベント(パネル展・映写会・クイズ・チラシ配布・利き水・マイ箸袋づくり・竹で箸づくり・てんぷら廃食油でキャンドルづくり・和ろうそくづくり・フリーマーケット・苗木配布・火おこし・BDF精製・ほか)
- ・ 食育を広げるための活動。パーマカルチャー研修会や生ごみ堆肥の土づくりをこれまでに5回開催。参加者180人。環境体験型農場「エコパーク論所原」をNPOで運営し、環境養育の体験・実習を学ばせる。
- ・ 菜の花プロジェクト。菜の花の種を蒔いて、菜の花からてんぷら油を精製する。試食後に廃食油として BDF(バイオ燃料)を製造。ディーゼル車に燃料として使用して、公用車を走らせる。
- ・ 島原半島3市における、地球温暖化防止活動推進員の研修会を、年間6回自主的に各テーマ別に開催する。
- ・ 環境活動団体の設立。民間の環境に関する活動団体を、テーマ別に設立する。(食育・パーマカルチャー・森づくり・有機農業・環境教育・和ろうそく・ほか)
- ・ 子供エコクラブの設立に向けての働きかけ。
- ・ トラジションタウンに向けての街づくり。Iターン・Uターン者が求める持続可能な生活ができるようにインフラの整備(農地・住宅情報提供・農業技術指導・地域住民との交流会・文化交流・生活、仕事の経済的自立・ほか)が現在進行中。



●プロジェクターや OHPを使って温暖化防止の講演を行なう



●あらゆるイベントの機会を見つけては啓発展示等を行なう
(パネルも製作)



●小学生(5～6年生)にも地球環境問題の講義を行なう



●ゲーム感覚で3Rのゴミ分別を理解してもらう



●高校生に対してもゴミ問題や、食糧問題について講演



●生ゴミから土づくりを学ぶ(パーマカルチャー研修会)



●イベント会場にて環境のパネル展やクイズ大会を開催



●私が使用している車両(100%天ぷら油の燃料)

所在地 〒855-0879 長崎県島原市平成町 1-1 災害記念館内

連絡先 TEL : 0957-64-0235 e-mail : mediaone@lime.ocn.ne.jp

URL http://www.n-nourin.jp/~forest/dantai_list/08/dantai.html

参 考 資 料

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の制度について

資料 1 平成 18～21 年度循環型社会形成推進功労者等
環境大臣表彰者功績一覧

資料 2 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の制度について

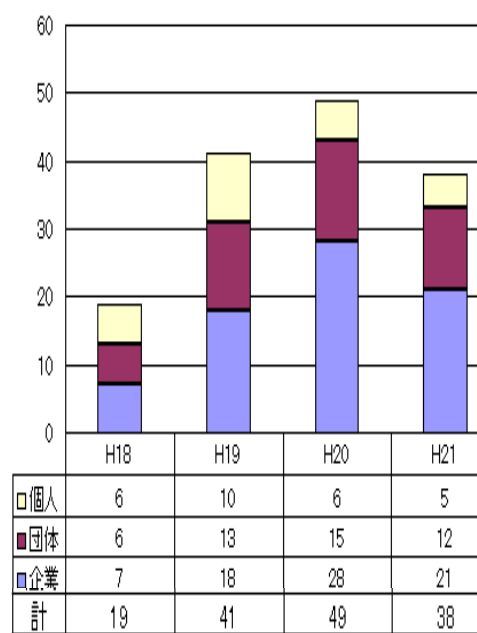
環境省が実施する循環型社会形成推進功労者等を表彰する制度は、平成 18 年度に創設されました。この制度は、廃棄物の発生量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）の適切な推進に顕著な功績があった個人、企業、団体を表彰し、その功績をたたえて、循環型社会の形成の推進に資することを目的としています。

申請は都道府県、環境省地方環境事務所と 3 R フォーラムが行い、環境省が審査・決定し、3 R 推進全国大会式典で表彰式を行っています。

受賞者数は、開始した平成 18 年度には 19 件（うち個人の部 6 件、団体の部 6 件、企業の部 7 件）でありましたが、平成 21 年度は 4 年目を迎え 38 件（うち個人の部 5 件、団体の部 12 件、企業の部 21 件）となっています。

平成 18 年度から平成 21 年度までの 4 年間の受賞者と功績の一覧は参考資料の資料 1 に掲載しました。また、表彰制度の実施要領（抄）及び申請（推薦）様式を資料 2 に掲載しました。

【3 R 功労者等環境大臣表彰】



【3 R 活動推進フォーラムについて】

3 R 活動推進フォーラムは、循環型社会形成を推進するため、ごみゼロパートナーシップ会議を拡充発展させ、平成 18 年 1 月 19 日に設立されました。平成 19 年 5 月には、(社)全国都市清掃会議に代わって(財)廃棄物研究財団が事務局を担っています。現在、循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰の推薦のほか、3 R 推進全国大会、3 R 促進ポスターコンクール、マイ・バッグ・キャンペーンなど各種 3 R 活動推進のための諸事業を実施しており、最近ではメールによる情報配信サービス「3 R NEWS」も開始したところです。

ごみ減量化推進国民会議から 3 R フォーラムの設立に至る沿革の概要は以下のとおりです。

- 平成 4 年 9 月 「ごみ減量化推進国民会議」発足、事務局は(社)全国都市清掃会議内に置く
- 平成 14 年 7 月 「ごみゼロパートナーシップ会議」に改称
- 平成 16 年 6 月 「3 R イニシアティブ」G 8 サミットにて提唱
- 平成 17 年 4 月 「3 R を通じた循環型社会の構築を国際的に推進するための日本の行動計画」（ゴミゼロ国際化行動計画）を発表
- 平成 18 年 1 月 「3 R 活動推進フォーラム」に改組
- 平成 19 年 4 月 (社)全国都市清掃会議から(財)廃棄物研究財団に事務局が移る

資料 1 平成18～21年度循環型社会形成推進功労者等
環境大臣表彰者功績一覧

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰(平成18年度)

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	いすゞエンジン製造北海道株式会社	製造工程から排出される廃棄物の発生抑制 除去後の水分 沈殿・濾過後製造工程に再利用
企業	長野県	林金属工業株式会社	廃プラスチックの溶融固化プラスチック原料へのリサイクル
企業	大阪府	有限会社 健養	大豆を原料とする各種加工製品の製造販売「おからレス豆乳・豆腐」の製造技術、製造装置を開発し営業を行う。
企業	鳥取県	フジ化成工業株式会社	廃磁気テープ及び廃ゴムを原料として優れた断熱・防音性の建材ボードを開発し、幅広い用途に利用されている。
企業	高知県	株式会社フードプラン	豆腐製品及びその製造方法による大豆粉末を使用し、製造することにより、大豆100%の豆腐を製造。汚泥排出もせず、環境にも配慮。
企業	大分県	三和酒類株式会社	廃棄物の排出抑制(焼酎粕の循環利用の拡大、焼酎粕を乾燥処理後、家畜飼料として再資源化するエコフードシステムを開発することで海洋投入処分回避が可能に)
企業	千葉県	バイオエナジー株式会社	メタンガス発酵プロセスを活用し発電、売電を行う食品リサイクル事業の実現
団体	青森県	七戸町立七戸中学校	勤労体験を通して協力性や責任感を養い、環境と資源を大切にすることを育てることを目的に「古紙、古びん」回収運動
団体	青森県	社会福祉法人親泉会	廃食油をBDFとしてリサイクルし、福祉と地場産業の振興に結びつけながら、循環型社会の形成に貢献
団体	宮城県	仙台生ごみリサイクルネットワーク	密閉式容器使用による生ごみリサイクルの普及活動、電気式生ごみ処理機・段ボールを使った生ごみ堆肥化方法にも取り組む
団体	愛知県	かりや消費者生活学校	資源の再利用、減量を目的とし「刈谷市リサイクルプラザ」の運営(不要物品の販売、情報提供)を行っている。
団体	奈良県	リサイクルクラブ天理	人形劇の上演、ごみ拾いハイキングの開催や見学会などの活動を通じリサイクル等環境啓発に貢献
団体	大阪府	有限責任中間法人堺臨海エコファクトリーズ協議会	大阪府の進める大阪府エコタウンプランの認定を受けた事業者による、循環型社会構築に向けての各事業者によるリサイクル施設整備を図る等
個人	富山県	田中 三徳	長年、環境カウンセラーとして活躍するとともに、富山県リサイクル認定審査会委員長として、富山県のリサイクル事業の推進に寄与している。
個人	長野県	栗田 たか子	ごみ減量を中心に据えた環境問題を生活者起点から官民に発信する活動を行っている。
個人	岐阜県	井戸 輝雄	県リサイクル認定製品普及を目的に岐阜県リサイクル事業協会を起ち上げ、3 R推進啓発活動の最前線でリーダーシップを発揮している。
個人	愛知県	山本 康子	環境への取組のリーダー的存在。「もったいない」という考えを基本に3 R活動を推進している。
個人	長崎県	浦 武	長崎市リサイクル推進協議会の委員として廃棄物の減量と資源化を推進
個人	埼玉県	秋元 智子	3 Rの中でも発生抑制の視点が重要であることと、ライフスタイルの変換の必要性から特にグリーンコンシューマー活動を推進している。

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰(平成19年度)

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	福岡県	西日本ペットボトルリサイクル株式会社	ペットボトル再商品化において、国内リサイクルシステムの一翼を担い廃棄物の循環利用の向上に貢献。
企業	長野県	花村産業株式会社	地球環境保全への取組を最重要課題と捉え、リサイクルの重要性を高く認識し、県内のアルミリサイクルを牽引するなど3 R推進に貢献。
企業	北海道	株式会社木の城たいせつ	事業活動に伴う産業廃棄物(木くず)を独創的な取組により循環的利用するほか、発生抑制に貢献。
企業	東京都	野村興産株式会社	廃棄物の発生抑制、循環的な利用及び特に、水銀含有廃棄物等についての適正処分を実現し、先駆的、独創的な技術開発により循環型社会の形成に貢献。
企業	大阪府	大栄環境株式会社	廃容器包装プラスチックをテーブルやベンチに再生する事業、産廃プラの固形燃料化、木くずのバイオマスガス化発電事業など、リサイクル活動に貢献。
企業	大阪府	近畿環境興産株式会社	廃油、油泥、汚泥廃塗料などの廃棄物処理を独創的な技術開発により補助燃料化するなど、海外への移転等も活発に行い、3 R推進に貢献。
企業	東京都	日栄産業株式会社	建設廃材(コンクリートガラ)の再生資源化事業で高いリサイクル率を誇り、海上輸送によりCO2及び粒子状物質の削減に取組み3 R推進に貢献。
企業	神奈川県	株式会社タケエイ	連結子会社3社によるグループ構成により、建設廃棄物を主とした適正処理を行い、廃棄物の新エネルギー資源化及び再生素材化を推進し、資源循環型社会構築に貢献。
企業	岩手県	北上製紙株式会社	古紙リサイクルを推進するなど地域の環境保全型社会形成の推進役であり、行政との協働により資源循環を行い3 R推進に貢献。
企業	東京都	東亜建設工業株式会社	建設発生土のリサイクル技術や湾や河川に堆積している汚染土の除去技術の活用により、環境保全・環境創造に貢献。
企業	岐阜県	上田石灰製造株式会社	リサイクル製品製造、リサイクル技術開発への積極的取組とフロン類破壊業者として地球環境保全への貢献。
企業	北海道	株式会社アレフ	事業活動に伴い発生する生ごみ等の減量・リサイクルに取組み、行政や地域等と連携して家庭の廃食用油のBDFの実用化を推進し、循環型社会の形成の実践と普及に貢献。
企業	大阪府	株式会社チクマ	広域認定制度を活用し、ペットボトル再生繊維の利用及び使用済みユニフォームの再生利用を全国展開し、3 R推進に貢献。
企業	東京都	高俊興業株式会社	排出事業者に発生抑制の企画提案を計画段階から行い、発生した建設廃棄物等は自社中間処理施設で無害化、減量化し、再資源化率の向上を図り、循環的社会づくりに貢献。
企業	東京都	株式会社伊藤園	大量に発生する茶殻を余分なエネルギーをかけずに畳、ボールペン等の身近な製品にお茶を配合する新たな技術を確立するなど、3 R推進に貢献。
企業	秋田県	株式会社エコリサイクル	使用済み家電、PC、OA機器のリサイクル、冷媒フロン、断熱材フロン適正処理及び断熱材を熱源利用、小型電子電気機器の希少金属再利用等、循環型社会の形成に貢献。
企業	熊本県	株式会社田中商店	ガラスびんの統一リユースシステムの構築という先駆的・独創的な取組の中心事業者として同システムの定着・拡大に尽力するなど、持続可能な循環型社会の構築に貢献。
企業	鳥取県	株式会社細田企画	石膏ボード分別等の技術開発、製品の全国的な販売普及を通じ、廃棄物の発生抑制・リサイクルの推進に貢献。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	京都府	ふろしき研究会	日本の伝統文化である「ふろしき」の普及を全国的に促進し、過剰包装やレジ袋削減の推進に大きく寄与し、3 R活動の推進に貢献。
団体	静岡県	磐田市豊田ごみを考える会	ごみの減量と循環型社会を目指し、永年地域でごみの分別指導や再資源化への研究、啓発活動を実施し、3 R活動の推進に貢献。
団体	神奈川県	ファイバーリサイクルネットワーク	古繊維リサイクルの実践活動、普及啓発活動を通じ、循環型社会の形成に貢献。
団体	愛知県	特定非営利活動法人稲沢ゴミO協議会	企業・行政に働きかけ廃棄物の3 Rの総合的な取組を実施し、循環型社会形成に向けた種々の活動を展開し、3 R活動の推進に貢献。
団体	北海道	循環ネットワーク北海道	循環型社会の構築に向けて、廃棄物の減量化・資源の有効利用の観点から幅広く活動し、北海道内の環境啓発に貢献。
団体	山形県	学校法人金山学園めばえ幼稚園	自ら廃食用油をBDFに再生し2台の送迎バスに利用する等、持続可能な循環型まちづくりに貢献。
団体	神奈川県	厚木なかちょう大通り商店街振興組合	消費者、生産者、大学などが一体となった生ごみ回収、堆肥化、これを利用した野菜生産、販売までを行う地域内循環システムを構築し、3 R活動推進に貢献。
団体	京都府	綾部市環境市民会議	ごみ問題をはじめ、地球温暖化等地球規模の環境問題に対し、自主的な各種の取組を実施する中、広く市民に環境保全意識を高め、循環型社会の構築に向けた3 R活動の推進に貢献。
団体	千葉県	G O N E T (ごみゼロネットちば21)	千葉県内各地で地域に根ざした3 R活動や、毎年、交流会や講演会、イベントの企画、行政や廃棄物処理事業者と市民との交流など3 R活動の普及啓発に貢献。
団体	青森県	特定非営利活動法人循環型資源社会発信地域創造グループ	むつ湾美化の諸活動、世界へ向けて情報発信等、不法投棄・有害物質監視の具体的な活動を通じ、3 R活動の推進に貢献。
団体	香川県	N P O グリーンコンシューマー高松	自治体、市民、NP0、企業等との協働による使用済み割りばしのリサイクル活動やイベント「こども割りばしサミット等」の活動を行い、3 R活動の推進に貢献。
団体	埼玉県	朝霞市リサイクルプラザ企画運営協議会	リサイクルプラザ開設当初から、3 R推進事業の企画・運営等を行っている市民ボランティア団体であり、積極的な3 R活動の推進に貢献。
団体	青森県	特定非営利活動法人循環型社会創造ネットワークNP0法人エッグ	事業系食品廃棄物の減量・堆肥化事業や、学校、地域コミュニティと連携した3 R活動推進に貢献。
個人	愛媛県	戒田 節子	環境ミュージカルの制作・上演等を通じて、ごみの減量化やリサイクルの必要性などの普及活動を永年にわたり継続的に実施する等
個人	広島県	源川 弘毅	R P F 事業、容リプラ再商品化事業展開、循環型社会づくりに向けた若手経営者の育成等、3 R活動の推進に貢献。
個人	茨城県	宮本 清治	製鉄所内で発生する集塵ダストから、鉄と亜鉛を分離回収する技術開発による、資源の有効利用に貢献。
個人	宮城県	今野 利夫	永年にわたり、廃棄物の発生抑制、減量・リサイクルの普及啓発活動を通じて、循環型社会の構築に貢献。
個人	徳島県	岸 小三郎	廃食用油等の再生利用に取組み、業界団体役員として廃棄物の発生抑制と循環の利用促進に貢献。
個人	北海道	服部 隆志	道内の廃自動車撤去事業において中心的役割を果たした。廃棄物の処理に関し高い見識を有し、循環型社会形成の推進に貢献。
個人	福岡県	藤 浩志	いらなくなったおもちゃを交換する「Kaekkoシステム」の開発・普及や、廃棄物等を利用した創作活動を通じ日常生活に根ざした3 Rの啓発活動に貢献。
個人	福岡県	岡崎 尚文	永年にわたり、協会役員として排出事業者や処理業者等に対する行政協力や地域における積極的な啓発普及活動の推進に貢献。
個人	福岡県	西山 末生	全国清掃事業連合会の3 R推進担当・副会長として、員企業に対する3 R推進活動のリーダーシップを発揮、加盟事業者に対する指導等を行い、3 R活動の推進に貢献。
個人	福岡県	奥野 照章	北九州市環境局長として全国に先がけ数々の環境施策を実施し、循環型社会の構築に先導的な役割を果たし3 Rの啓発活動に貢献。

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰(平成20年度)

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	パナソニック電工帯広株式会社	成形工程で発生する廃プラスチックを削減し、廃棄物の発生を最小限に抑える取り組みを実施するなど、3 R 推進に貢献。
企業	北海道	株式会社町村農場	家畜排せつ物を処理して有機肥料として農地に還元、処理の際に発生するバイオガスを燃料に発電するなど、3 R 推進に貢献。
企業	岩手県	太平洋セメント株式会社大船渡工場	廃棄物のセメント資源化による適正処理の実現などにより、循環型社会の形成推進に貢献。
企業	岩手県	東北日本電気株式会社	地域におけるゼロエミッション推進活動に先導的な役割を担い、循環型社会の形成推進に貢献。
企業	秋田県	横手運送株式会社	生ごみのリサイクルによるコンポストを使用した環境に配慮したエコフードの栽培・販売で、循環型システムの普及・促進に貢献。
企業	山形県	東北エプソン株式会社	事業活動で発生する廃棄物の再資源化率100%の達成、半導体業界初のフッ酸の再資源化など、循環型社会形成推進に貢献。
企業	栃木県	花王株式会社 栃木工場	産業廃棄物のゼロエミッションの継続、そのリデュース、リユース、リサイクルにより 3 R 活動の推進に貢献。
企業	栃木県	有限会社 ドンカメ	生ごみの堆肥化や農家と連携した学校給食への農作物の供給等、町独自の食の循環システムの確立に貢献。
企業	千葉県	株式会社 東亜オイル興業所	廃油から再生重油及びコンクリート剥離剤を製造することによりリサイクル事業を実施し、循環型社会の推進に貢献。
企業	東京都	五洋建設株式会社	職員・協力会社・処理会社等現場の 3 R 活動に積極的に取り組むなど、3 R 推進に貢献。
企業	東京都	株式会社 リーテム	長く資源循環の規範的な取り組みを行い、3 R 推進・普及活動を展開、業界のリーダー的存在として循環型社会形成に貢献。
企業	石川県	株式会社 北陸リサイクルセンター	飲料容器の再商品化について事業系または行政分を加え活動、リサイクル国内循環の一翼を担い、再生利用の向上に貢献。
企業	福井県	福井環境事業株式会社	最新の選別システムの導入によるプラスチックの資源化に取り組むなど、多年にわたり 3 R 推進に貢献。
企業	長野県	小柳産業株式会社	永年にわたりリサイクルを主体に地域社会とともに環境保全に取り組むなど、循環型社会形成推進に貢献。
企業	岐阜県	西濃建設株式会社	建設廃棄物リサイクル事業、下水汚泥リサイクル技術開発の積極的取組と使用を通して循環型社会形成に貢献。
企業	三重県	岩谷興産株式会社	エココンテナの開発・販売により、保管物の劣化防止によるリサイクル効果の向上に寄与するなど、3 R 推進に貢献。
企業	三重県	エス・エヌ・ケー・テクノ株式会社	産業廃棄物(廃油、廃液等)を燃料化、セメント焼成用補助燃料として安定・継続的に供給し、循環型社会形成推進に貢献。
企業	京都府	株式会社 京都環境保全公社	廃プラスチック、紙くず及び下水汚泥のリサイクル推進に努め、その普及啓発に尽力するなど、3 R 活動推進に貢献。
企業	京都府	宝酒造株式会社伏見工場	廃棄物の分別回収の徹底、排水余剰汚泥減容化等に取り組み、経年的に再資源化率99%以上を達成し、3 R 推進に貢献。
企業	京都府	日立マクセル株式会社京都事業所	磁気テープ屑の建材材料化や廃プラスチックの固形燃料化により経年的に再資源化率99%以上を達成し、3 R 推進に貢献。
企業	兵庫県	新日本開発株式会社	燃え殻の全量セメント原材料化、成分調整した混合廃棄物のセメント燃原料化など、循環型社会形成推進に貢献。
企業	鳥取県	有限会社 山陰クリエート	発泡スチロールの油化還元、廃プラスチックの固形燃料化など、3 R 推進に貢献。
企業	岡山県	鈴木工業株式会社	食品工場等から発生する無機汚泥に生石灰等を加え、消石灰製品等を製造する技術確立、3 R 推進に貢献。
企業	福岡県	田川産業株式会社	「漆喰」をベースにした独創的な手法により、石炭灰等を内装用建材にリサイクルする技術を開発、実用化、3 R 推進に貢献。
企業	福岡県	株式会社 フコク	ポリエステル不織布端材を自動車床下吸音材等とする技術及び製造工程を確立し、廃棄物発生抑制に貢献。
企業	熊本県	株式会社 環境総合技術センター	生ごみを発酵・乾燥、肥料にして野菜づくりを行う完全循環型食品リサイクルシステムを実現し、循環型社会形成推進に貢献。
企業	大分県	日本フィルム株式会社	「ごみ袋は資源バッグ」という理念のもと、環境と人に配慮した製品開発を推進し、ごみ減量化等に貢献。
企業	鹿児島県	大口酒造株式会社	酒造(焼酎)メーカーとして900ml茶びんのリユースシステムの構築、ガラスびんリユースの普及に尽力、3 R 活動推進に貢献。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	秋田県	協業組合 タイセイ	建造物解体に伴う廃木材をチップ化、バイオマスボイラーの燃料に利用する等、廃木材の再生利用(リサイクル)に貢献。
団体	山形県	長井市／レインボープラン推進協議会	生ごみを分別・堆肥化、その堆肥で生産した農産物を消費するリサイクルシステムを推進、循環型社会形成に貢献。
団体	山形県	P & P トレーリサイクル研究会	ヨコタ東北を中心に地元スーパー及び福祉施設等が連携し、食品トレーの再生再利用を行うなど、3 R 推進に貢献。
団体	富山県	富山県レジ袋削減推進協議会	全国で初めて県内全域のスーパーマーケットなどにおいてレジ袋の無料配布取止めに踏み切るなど、3 R 推進に貢献。
団体	福井県	敦賀市消費者連絡協議会	永年にわたりごみ減量化等の普及啓発を行い、レジ袋削減の取組にも主導的な役割を果たすなど、3 R 活動推進に貢献。
団体	静岡県	菅山区	紙類ごみのリサイクル活動を行う雑紙減量大作戦を展開し、地域住民に廃棄物削減の意識を広めるなど、3 R 活動推進に貢献。
団体	愛知県	小牧市女性の会	3 R 運動が注目される以前からリサイクル問題に着目し、さまざまな活動を展開、循環型社会の形成推進に貢献。
団体	愛知県	特定非営利活動法人中部リサイクル運動市民の会	永年にわたり、リサイクル運動の推進、環境商品の開発普及等に主導的な役割を果たすなど、循環型社会形成推進に貢献。
団体	三重県	N P O とばりサイクルネットワーク	「鳥羽市リサイクルパーク」を設立時から主体となって管理・運営を行い、家庭ごみのリサイクルなど、3 R 推進に貢献。
団体	兵庫県	相生市消費生活研究会	兵庫県の5 R の取り組みに先駆け、先進的にマイバッグ持参運動に取り組み、レジ袋無料配布中止によるレジ袋の削減に貢献。
団体	岡山県	倉敷市環境衛生協議会水島地区協議会	ごみ減量化などの3 R 推進をスローガンに、ごみゼロキャンペーンなどの運動を永年にわたり行うなど、3 R 活動の推進に貢献。
団体	岡山県	特定非営利活動法人津山市消費生活モニター連絡会	“環境を守ることは生命(いのち)を守ること”を基本理念にリサイクルなどの活動を展開、循環型社会形成推進に貢献。
団体	福岡県	特定非営利活動法人21世紀の森林づくり	スギの間伐材等の低位利用材を活用した「オール木質材パレット」を開発し、3 R 推進に貢献。
団体	佐賀県	特定非営利法人 伊万里はちがめプラン	生ごみや廃食油を捨てる側の料飲店組合・旅館組合が主体となり、資源として活用する取り組みを行い、3 R 活動推進に貢献。
団体	長崎県	させぼエコプラザ	廃校となった小学校校舎を再利用し、粗大ごみ補修譲渡等機能を兼備した市民協働型運営を行い、循環型社会形成推進に貢献。
個人	北海道	矢羽羽 京子	古紙、ダンボール、空き缶等回収運搬の実践、普及啓発活動を通じ、循環型社会の形成と障害者の自立支援社会参加に貢献。
個人	東京都	戸部 昇	東京包装容器リサイクル協同組合の副理事長としてPETボトル等の回収システムを構築し、東京都内の自治体分別回収に貢献。
個人	神奈川県	彦坂 武功	永年にわたり、業界団体のトップリーダーとして、廃木材のリサイクル推進に取り組み、循環型社会の形成に貢献。
個人	岡山県	小六 信和	古紙のリサイクル教室を開催し、自ら講師として学校等を訪問してリサイクル思想の普及啓発に取り組むなど、3 R 活動推進に貢献。
個人	徳島県	板東 昭	建設系産業廃棄物(木くず、がれき類)の再生利用を推進、業界団体役員として廃棄物の発生抑制と循環的利用促進に貢献。
個人	長崎県	立山 貢	全清連加盟400余会員企業に対する循環型社会づくり・3 R 推進に関する普及啓発活動を展開するなど、3 R 活動推進に貢献。

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰(平成21年度)

部門	都道府県	氏名等	功績内容
企業	北海道	環境開発工業株式会社	エレメントカッター機の開発により、自動車の廃オイルフィルターを約80%再資源化し廃棄物の排出量を抑制。
企業	岩手県	岩手東芝エレクトロニクス株式会社	産業廃棄物のリサイクル並びに最終処分量の抑制に注力し、循環型社会形成に貢献。
企業	千葉県	シャープ株式会社 幕張事業所	紙の使用量把握とリサイクルの徹底、厨芥の減容化、OA機器等産業廃棄物のリサイクルの徹底等に貢献。
企業	東京都	東京たまエコセメント株式会社	ごみ焼却灰の全量をエコセメント原料として再生利用し、埋立地の延命化等に寄与。
企業	東京都	森永乳業株式会社 東京多摩工場	廃棄物の外部排出量削減及びゼロエミッションの推進並びに容器の再使用、軽量化等、3 Rの推進。
企業	東京都	東レ株式会社 機能製品・縫製品事業部門 機能製品事業部	ユニフォームのリサイクルシステムを推進し、普及に貢献。
企業	東京都	日新工業株式会社	ユニフォームのリサイクルシステムを推進し、普及に貢献。
企業	東京都	株式会社 長谷工コーポレーション	循環型社会形成に対して、廃棄物の減量化とリサイクルの推進への取り組みとして、全事業所で混合廃棄物量の削減を図っている。
企業	東京都	株式会社 大林組	建設業界に先駆けて、ゼロエミッション活動を開始し、全現場に展開。廃棄物の排出抑制を大幅に向上させた。
企業	長野県	株式会社 信州ウェイスト	適正処理の在り方について常に創意工夫を凝らし、資源有効活用の追求と資源循環構築に積極的に取り組んでいる。
企業	岐阜県	丸硝株式会社	廃ガラスリサイクル事業を通じた循環型社会への貢献。
企業	静岡県	静岡油化工業株式会社	食品廃棄物の資源循環型ビジネス、バイオ燃料導入の分野で社会的な貢献が大きく、3 R活動の模範となっている。
企業	京都府	光アスコン株式会社	産業廃棄物の適正処理並びに省資源を推進し、環境破壊を減らすべく建設廃材アスファルトガラの再生及び廃プラスチック・紙くずのリサイクルに努め、その普及啓発に尽力。
企業	兵庫県	キンキサイン株式会社	製造工程より排出された茶殻を堆肥化。
企業	兵庫県	泉興業株式会社	有機性汚泥・樹木の肥料化、金属・プラスチックの原料化など、多種廃棄物の再生利用に取り組み、循環型社会の形成に寄与。
企業	鳥取県	倉吉環境事業有限公司	使用済み天ぷら油を無償回収し、BOP燃料にリサイクル化し、循環型社会に貢献。
企業	徳島県	大塚製薬株式会社 徳島ワジキ工場	廃棄物の再資源化を推進し、ゼロエミッションを達成。徳島県3 Rモデル事業所として循環型社会形成に貢献。
企業	香川県	リコー関西株式会社 四国支社	ペーパーレスオフィスや廃棄物の100%再資源化を達成し、そのノウハウを公開し3 Rに貢献。
企業	福岡県	株式会社 ビッグベアーズフーズサービス	ピザ等の容器・箱をリユース・リサイクルし、容器代も返還するデポジット制に取り組んでいる。
企業	福岡県	シタマ石灰有限会社	廃棄される乾燥剤を有効活用した乾燥剤リサイクル肥料の開発。
企業	佐賀県	有限会社 鳥栖環境開発総合センター	永年にわたり3 R活動や資源物循環への取組を実施。さらにメタン発酵発電施設、木質バイオマス燃料化施設、廃食用油燃料化などバイオマスエネルギーの推進に寄与。

部門	都道府県	氏名等	功績内容
団体	北海道	下川町森林組合	間伐や木材加工工程で発生する森林バイオマスの有効利用により、ゼロエミッションシステムを確立。
団体	秋田県	N P O 法人 秋田菜の花ネットワーク	菜の花の利活用に関連する全県的な活動を展開し、BDF燃料の製造・利用などの循環型社会形成の推進に貢献。
団体	富山県	南砺市連合婦人会	県内トップクラスの資源集団回収の実施やマイバッグ運動の推進など、ごみの減量化・リサイクル活動を積極的に取り組んでいる。
団体	富山県	滑川市立早月中学校 P T A	長年にわたり資源集団回収を実施するなど、地域ぐるみでごみの減量化・リサイクル活動に積極的に取り組んでいる。
団体	石川県	かほく市子ども会連絡協議会	30有余年の資源ごみ集団回収を通じ、廃棄物の排出抑制等に大きく寄与。
団体	岐阜県	美濃加茂市生活学校	長期に渡って定期的な資源回収を実施し、リサイクル活動に貢献。
団体	静岡県	静岡県牛乳協会	学校給食用牛乳の紙パックのリサイクル推進に向けたシステムづくり及び資源再利用の推進。
団体	大阪府	柏原エイフボランティアクラブ	環境美化運動、3 R の推進運動や各種キャンペーンを展開し、ごみ減量と環境美化、環境保全に大きく貢献。
団体	兵庫県	エコフィード循環事業協同組合	食品バイオマスから、エコフィード製造と高付加価値食品の生産流通システムを構築。
団体	愛媛県	愛媛県立新居浜工業高等学校	使用済の車椅子を修理・再生し、アジア諸国に届ける「空飛ぶ車椅子」活動に積極的に取り組んでいる。
団体	福岡県	三潞郡大木町婦人会	廃傘布を利用したマイバッグ作りや生ごみを堆肥化するなどリサイクルの普及啓発活動を実施。
団体	福岡県	中島校区まちづくり協議会	古紙・空き缶・食用廃油の回収に取組、町づくりを推進。
個人	福島県	占部 敏治	全国清掃事業連合会における3 R 推進担当理事として、全国445会員企業に対する循環型社会づくり・3 R 推進の啓発活動の先頭に立つとともに、全国清掃事業連合会東北地区会員に対する3 R 推進の指導を行っている。
個人	神奈川県	玉川 榮	大和市リサイクル事業協同組合の設立当初より、代表理事に就任し、多年にわたり、資源回収事業を受託し行政による循環型社会に貢献。
個人	岡山県	岡本 靖磨呂	親子環境学習エコツアーの実施等の環境教育に率先して取り組むなど、循環型社会に多大の貢献。
個人	広島県	三上 秀行	アスファルト廃材、コンクリート廃材の再利用促進に関わる啓蒙活動。
個人	長崎県	旭 芳郎	ごみ減量化や温暖化防止などの循環型社会の重要性について啓発活動を展開。

資料 2 循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）
（平成 18 年 7 月 7 日環廃対発第 060707002 号環境大臣通知
による実施要領より）

循環型社会形成推進功労者等環境大臣表彰実施要領（抄）

I 目的

本制度は、総物質投入量・資源採取量・廃棄物等発生量・エネルギー消費量の抑制（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）、熱回収（エネルギーリカバリー）の適切な推進、廃棄物の収集運搬・処分事業、浄化槽の設置・保守点検・清掃及び製造等の事業、ねずみ・衛生害虫等の防除及び清掃等による生活環境の改善、廃棄物処理技術に関する研究等に顕著な功績があった個人、企業、団体又は地区を表彰し、その功績をたたえ、もって循環型社会の形成、廃棄物の減量その他その適正な処理の確保、浄化槽によるし尿及び雑排水の適正な処理の推進その他生活環境の保全に資することを目的とする。

II 表彰の対象

次の1から6までのいずれかに該当する個人、企業、団体又は地区を表彰の対象とする。

ただし、春秋叙勲による勲章受章者、環境衛生事業功労者厚生労働大臣表彰、生活環境改善事業功労者等環境大臣表彰を受けた者(地区)を除く。

1 循環型社会形成推進功労者

先駆的又は独創的な取組により、循環型社会の形成について顕著な成果を上げている個人、企業又は団体であって、次のいずれかに該当するもの。

(1) 3R活動推進功労（個人）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を展開し、これらの活動の推進に熱意と識見を有する者。

ただし、これらの活動を廃棄物の収集運搬・処分事業として行う者を除く。

(2) 3R活動推進功労（団体）

廃棄物等の発生抑制及び循環的な利用に関する具体的活動又は普及啓発活動を目的とする団体であって、これらの活動を継続的かつ着実に推進してきたもの。

ただし、公益法人（社団法人、財団法人）、営利を目的とする団体及び宗教上の教義を広める活動を行う団体を除く。

(3) 3R活動優良企業（企業）

廃棄物等の発生抑制、循環的な利用及び適正処分を実現した企業であって、次のいずれかに該当するもの。

イ その工場又は事業所等の事業に係る拠点において、当該事業活動に伴う廃棄物等の大幅な発生抑制又は循環的な利用の大幅な拡大を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ロ その製品等について、廃棄物等としての相当程度の発生抑制、循環的な利用の相当程度の拡大又は適正処分の飛躍的な向上を実現した企業であって、その取組が将来的にも持続し得るもの。

ハ 廃棄物等の大幅な発生抑制、循環的な利用の大幅な拡大又は適正処分の飛躍的な向上のための技術、製品又はシステムを実用化し、かつその普及を図る企業。

（略）

III 被表彰者の決定

1 被表彰者決定の手続

被表彰者（又は団体）は、都道府県又は3R活動推進フォーラムが推薦する者（又は団体）について、別途定める表彰選考会の審査を経て環境大臣が決定する。

被表彰者の推薦については、IIに定める被表彰者の功績の区分ごとに別紙様式1から8により、別途定める推薦者数の範囲内で毎年7月1日まで（平成18年度に限り8月1日まで）に大臣あてに行うものとする。

2 表彰の方法

表彰の方法は、被表彰者の功績の区分別に表彰状を授与して行うものとし、その時期及び場所、別途、被表彰者に通知するものとする。

別紙様式 1

平成 年循環型社会形成推進功労者推薦調書（個人用）

都道府県等名

推薦順位		(ふりがな) 氏 名		性別		生年月日 及び年齢	4 月 1 日現在 (満 歳)
現 住 所							
所属及び 役 職 名							
推薦事項							
賞 罰 歴					功 績 内 容		
年 月 日	主 体		賞罰の内容及び事由				
略 歴（功績に関係のあるもの）							
期 間			事 項				
事業又は勤務年数					年 月		
所管課及び担当者		(電話 - -) 部（局） 課担当者					

注 1 「推薦事項」欄には、功績の概要を 50 字以内にまとめて記入すること。

(資料発表の原稿とする。)

2 「賞罰歴」欄には道路交通法又は公職選挙法違反についても必ず記載すること。

また、都道府県等におけるこの種の表彰制度の無い場合は「備考」として「表彰制度無し」と記載すること。

履 歴 書

		ふりがな	
		氏 名	印
		生年月日	年 月 日生 (満 歳)
本籍			
現住所			

年月日	事 項

※別紙様式 1、3～6、8 に添付すること。

別紙様式 2

平成 年循環型社会形成推進功労者推薦調書（団体・企業用）

都道府県等名

推薦順位		(ふりがな) 団体・ 企業名	
所在地			
設立年月	年 月		
推薦事項			
功 績 内 容			
活動の状況（功績に関係のあるもの）			
期 間		事 項	
活動年数（通算） 年 月			
所管課及び担当者	(電話 - -) 部（局） 課担当者		

注 1 「推薦事項」欄には、功績の概要を50字以内にまとめて記入すること。

(資料発表の原稿とする。)

2 特定非営利活動法人（NPO）、企業においては定款を、その他の団体においては、団体規約等を添付すること。

3 団体・企業の概要がわかるもの（パンフレット等）を添付すること。